

玉名市文化財調査報告 第 21 集

# 玉名市内遺跡調査報告書VI

平成 20 年度の調査

平成 21 年 (2009) 12 月

玉名市教育委員会



## ご 挨拶

玉名市は、旧石器時代から今日に至るまで長い歴史を持ち、菊池川を中心に豊富な文化財が所在する地域です。今後は、九州新幹線開業に向けて玉名バイパスの全線開通や、そのアクセス道路となる都市計画道路の開発が増加することが予想されます。

このような中で玉名市教育委員会では、公共事業及び民間開発事業等との調整を図りながら、発掘調査等の円滑な遂行のため、玉名市内に所在する文化財の状況把握に常に取り組み、埋蔵文化財行政の改善・充実に努力しているところであります。また、その成果の公開・活用を通じて、広く教育・文化の発展に寄与できればと考えています。

本書は、平成20年度に実施した各種開発に伴う試掘・確認調査の成果をまとめた報告書です。本書が市民の方々の埋蔵文化財に対する理解の一助となり、また、学術研究にも広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査、報告書作成にあたって各方面で多くの方々にご指導、ご協力を賜ったことに対しまして厚くお礼を申し上げます。

平成21年12月28日

玉名市教育委員会

## 例 言

1. 本書は、玉名市教育委員会が平成20年度に国・県の補助を受けて実施した玉名市内遺跡の調査報告書である。
2. 調査は、玉名市教育委員会文化課、兵谷有利、田中康雄、末永 崇、中村安宏、齋父雅史、古閑敬士、大倉千寿が担当した。
3. 本書掲載の遺構及びトレンチ等の実測図は、各調査担当者が作成した。
4. 遺物の実測は、福田まき、徳田晴華が行い、嶋村ひとみの協力を得た。製図は、尾崎延枝、福田が行い、早川イツエの協力を得た。
5. 調査時の写真撮影は、各調査担当者が行い、遺物の写真撮影は大倉が行った。
6. 挿図に使用している座標は、玉名市役所土木課の地籍集成図から転記し、座標値は世界測地系の第2座標系に基づいている。方位は特に記載がない限り座標北を示す。
7. 同遺跡の調査を複数行っている場合には、アルファベットによる調査地点名を付している。
8. 調査地の地番については、原則として文化財保護法に基づく届出・通知の際の地番を表示している。いくつかの調査地点については、分筆等により新たな地番が付されている場合がある。
9. 出土遺物の整理作業は、中村、大倉が担当し、玉名市文化財整理室で行った。
10. 出土遺物は、玉名市文化財整理室で保管している。
11. 本書の執筆は、各担当者が行い、中村、大倉が校正・補足した。編集は、中村、大倉が担当した。

## 本文目次

ご挨拶

例言

本文目次

挿図目次

写真目次

表目次

### I 調査の概要

- |         |   |
|---------|---|
| 1 調査の体制 | 1 |
| 2 調査の方法 | 1 |
| 3 調査総括  | 1 |
| 4 活用    | 2 |

### II 平成20年度の調査

- |                   |    |
|-------------------|----|
| 1 玉名平野条里跡         | 7  |
| 2 山田神社門前遺跡A地点     | 8  |
| 3 高岡原遺跡           | 11 |
| 4 高瀬藩邸・藩丁跡A地点     | 18 |
| 5 山田松尾平遺跡         | 20 |
| 6 蓮華遺跡            | 21 |
| 7 高瀬藩邸・藩丁跡B地点     | 23 |
| 8 亀甲遺跡            | 24 |
| 9 岩崎原遺跡           | 27 |
| 10 山田神社門前遺跡B地点    | 28 |
| 11 広福寺門前遺跡        | 30 |
| 12 石貫農業用溜池予定地     | 31 |
| 13 南出遺跡           | 32 |
| 14 末広開堤防跡         | 34 |
| 15 大原遺跡A地点        | 37 |
| 16 中北遺跡A地点        | 39 |
| 17 北牟田給油所予定地      | 42 |
| 18 都市計画道路境川山田線予定地 | 44 |
| 19 庄山中ノ尾遺跡        | 45 |
| 20 八段遺跡           | 52 |
| 21 伊倉宮の後遺跡        | 55 |
| 22 刀研遺跡           | 56 |

23	キャアガラワラ貝塚	60
24	石貫穴観音横穴	62
25	中北遺跡B地点	65
26	大原遺跡B地点／塚原遺跡	66
27	高城遺跡	67

報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図	平成20年度調査地位置図	3
第 2 図	玉名平野条里跡調査地位置図	7
第 3 図	玉名平野条里跡トレンチ配置図	7
第 4 図	山田神社門前遺跡A地点調査地位置図	8
第 5 図	山田神社門前遺跡A地点トレンチ配置図	8
第 6 図	山田神社門前遺跡A地点トレンチ実測図①	9
第 7 図	山田神社門前遺跡A地点トレンチ実測図②	10
第 8 図	山田神社門前遺跡A地点出土遺物実測図	10
第 9 図	高岡原遺跡調査地位置図	11
第 10 図	高岡原遺跡トレンチ配置図	11
第 11 図	高岡原遺跡遺構配置図	12
第 12 図	高岡原遺跡トレンチ実測図①	13
第 13 図	高岡原遺跡トレンチ実測図②	14
第 14 図	高岡原遺跡トレンチ実測図③	15
第 15 図	高岡原遺跡トレンチ実測図④	16
第 16 図	高岡原遺跡 S-4 実測図	17
第 17 図	高岡原遺跡出土遺物実測図	17
第 18 図	高瀬藩邸・藩丁跡A地点調査地位置図	18
第 19 図	高瀬藩邸・藩丁跡A地点トレンチ配置図	18
第 20 図	高瀬藩邸・藩丁跡A地点トレンチ実測図	19
第 21 図	山田松尾平遺跡調査地位置図	20
第 22 図	山田松尾平遺跡トレンチ配置図	20
第 23 図	山田松尾平遺跡トレンチ実測図	20
第 24 図	蓮華遺跡調査地位置図	21

第 25 図	蓮華遺跡トレンチ配置図	21
第 26 図	蓮華遺跡トレンチ実測図	22
第 27 図	蓮華遺跡出土遺物実測図	22
第 28 図	高瀬藩邸・藩丁跡B地点調査地位置図	23
第 29 図	高瀬藩邸・藩丁跡B地点トレンチ配置図	23
第 30 図	高瀬藩邸・藩丁跡B地点トレンチ実測図	23
第 31 図	高瀬藩邸・藩丁跡B地点出土遺物実測図	23
第 32 図	亀甲遺跡調査地位置図	24
第 33 図	亀甲遺跡トレンチ配置図	24
第 34 図	亀甲遺跡トレンチ実測図	25
第 35 図	亀甲遺跡出土遺物実測図	26
第 36 図	岩崎原遺跡調査地位置図	27
第 37 図	岩崎原遺跡トレンチ配置図	27
第 38 図	岩崎原遺跡トレンチ実測図	27
第 39 図	山田神社門前遺跡B地点調査地位置図	28
第 40 図	山田神社門前遺跡B地点トレンチ配置図	28
第 41 図	山田神社門前遺跡B地点トレンチ実測図	29
第 42 図	山田神社門前遺跡B地点出土遺物実測図	29
第 43 図	広福寺門前遺跡調査地位置図	30
第 44 図	広福寺門前遺跡トレンチ配置図	30
第 45 図	広福寺門前遺跡周辺測量図	30
第 46 図	広福寺門前遺跡トレンチ実測図	30
第 47 図	石貫農業用溜池予定地調査地位置図	31
第 48 図	石貫農業用溜池予定地トレンチ配置図	31
第 49 図	石貫農業用溜池予定地周辺測量図	31
第 50 図	石貫農業用溜池予定地トレンチ実測図	31
第 51 図	南出遺跡調査地位置図	32
第 52 図	南出遺跡トレンチ配置図	32
第 53 図	南出遺跡トレンチ実測図	33
第 54 図	南出遺跡出土遺物実測図	33
第 55 図	未広開堤防跡全体図	35
第 56 図	大原遺跡A地点調査地位置図	37
第 57 図	大原遺跡A地点トレンチ配置図	37
第 58 図	大原遺跡A地点トレンチ実測図	38
第 59 図	大原遺跡A地点出土遺物実測図	38
第 60 図	中北遺跡A地点調査地位置図	39

第 61 図	中北遺跡A地点トレンチ配置図	39
第 62 図	中北遺跡A地点トレンチ実測図①	40
第 63 図	中北遺跡A地点トレンチ実測図②	41
第 64 図	中北遺跡A地点出土遺物実測図	41
第 65 図	北牟田給油所予定地調査地位位置図	42
第 66 図	北牟田給油所予定地トレンチ配置図	42
第 67 図	北牟田給油所予定地トレンチ実測図	43
第 68 図	都市計画道路境川山田線予定地調査地位位置図	44
第 69 図	都市計画道路境川山田線予定地トレンチ配置図	44
第 70 図	庄山中ノ尾遺跡調査地位位置図	46
第 71 図	庄山中ノ尾遺跡トレンチ配置図	46
第 72 図	庄山中ノ尾遺跡トレンチ実測図①	46
第 73 図	庄山中ノ尾遺跡トレンチ実測図②	47
第 74 図	庄山中ノ尾遺跡トレンチ実測図③	48
第 75 図	庄山中ノ尾遺跡トレンチ実測図④	49
第 76 図	庄山中ノ尾遺跡トレンチ実測図⑤	50
第 77 図	庄山中ノ尾遺跡出土遺物実測図	51
第 78 図	八段遺跡調査地位位置図	52
第 79 図	八段遺跡トレンチ配置図	52
第 80 図	八段遺跡トレンチ実測図	53
第 81 図	八段遺跡出土遺物実測図	54
第 82 図	伊倉宮の後遺跡調査地位位置図	55
第 83 図	伊倉宮の後遺跡トレンチ配置図	55
第 84 図	伊倉宮の後遺跡トレンチ実測図	55
第 85 図	刀研遺跡調査地位位置図	56
第 86 図	刀研遺跡調査範囲図	56
第 87 図	刀研遺跡周辺測量図	57
第 88 図	子孫に残されている旧宅絵図	57
第 89 図	刀研遺跡石垣立面図①	58
第 90 図	刀研遺跡石垣立面図②	59
第 91 図	キャアガラワラ貝塚調査地位位置図	60
第 92 図	キャアガラワラ貝塚トレンチ配置図	60
第 93 図	キャアガラワラ貝塚トレンチ実測図	61
第 94 図	石貫穴観音横穴測量範囲図	63
第 95 図	石貫穴観音横穴周辺測量図	63
第 96 図	中北遺跡B地点調査地位位置図	65



第 97 図	中北遺跡B地点トレンチ配置図	65
第 98 図	中北遺跡B地点トレンチ実測図	65
第 99 図	大原遺跡B地点/塚原遺跡調査地位置図	66
第 100 図	大原遺跡B地点トレンチ配置図	66
第 101 図	塚原遺跡トレンチ配置図	66
第 102 図	高城遺跡調査地位置図	67
第 103 図	高城遺跡トレンチ配置図	67
第 104 図	高城遺跡トレンチ実測図	67

## 写真目次

写真 1	調査風景	1
写真 2	たまな発掘速報展展示状況	2
写真 3	玉名平野条里跡調査地近景(西から)	7
写真 4	山田神社門前遺跡A地点 3T土層堆積状況(北から)	8
写真 5	高岡原遺跡調査地近景(南西から)	11
写真 6	高岡原遺跡S-5完掘状況(南から)	14
写真 7	高岡原遺跡F T掘削状況(南から)	15
写真 8	高岡原遺跡S-4完掘状況(西から)	17
写真 9	高瀬藩邸・藩丁跡A地点調査地近景(西から)	18
写真 10	高瀬藩邸・藩丁跡A地点土層堆積状況(東から)	18
写真 11	蓮華遺跡調査地近景(西から)	21
写真 12	蓮華遺跡1T掘削状況(南から)	21
写真 13	蓮華遺跡2T土層堆積状況(南西から)	22
写真 14	蓮華遺跡3T土層堆積状況(北西から)	22
写真 15	亀甲遺跡調査地近景(南から)	24
写真 16	亀甲遺跡南側斜面遺物散布状況(南から)	25
写真 17	亀甲遺跡2T土層堆積状況(南から)	25
写真 18	亀甲遺跡出土遺物22	26
写真 19	亀甲遺跡出土遺物23	26
写真 20	岩崎原遺跡調査地近景(西から)	27
写真 21	山田神社門前遺跡B地点1T土層堆積状況(北から)	28
写真 22	広福寺門前遺跡2T土層堆積状況(西から)	30

写真 23	石貫農業用溜池予定地全景 (北から) .....	31
写真 24	南出遺跡調査地近景 (南から) .....	32
写真 25	南出遺跡 1T 土層堆積状況 (南から) .....	33
写真 26	南出遺跡 2T 土層堆積状況 (南西から) .....	33
写真 27	石積 typeA の部分 .....	35
写真 28	石積 typeB の部分 .....	35
写真 29	六枚戸海側 (南東から) .....	36
写真 30	六枚戸陸側 (北西から) .....	36
写真 31	六枚戸西 (海側) .....	36
写真 32	六枚戸西 (陸側) .....	36
写真 33	六枚戸東 (海側) .....	36
写真 34	六枚戸東 (陸側) .....	36
写真 35	二枚戸海側① (東から) .....	36
写真 36	二枚戸海側② (東から) .....	36
写真 37	大原遺跡 A 地点調査地近景 (北から) .....	37
写真 38	大原遺跡 A 地点 1T 土層堆積状況 (西から) .....	38
写真 39	大原遺跡 A 地点 S-2 検出状況 (西から) .....	38
写真 40	中北遺跡 A 地点調査地全景 (西から) .....	39
写真 41	中北遺跡 A 地点 1T 遺構完掘状況 (南から) .....	40
写真 42	中北遺跡 A 地点木棺墓完掘状況 (北東から) .....	41
写真 43	北牟田給油所予定地調査地近景 (南から) .....	42
写真 44	北牟田給油所予定地 1T 土層堆積状況 (北西から) .....	42
写真 45	北牟田給油所予定地 2T 土層堆積状況 (北東から) .....	43
写真 46	北牟田給油所予定地 4T 土層堆積状況 (東から) .....	43
写真 47	都市計画道路境川山田線予定地 8T 近景 (西から) .....	44
写真 48	都市計画道路境川山田線予定地 11T 土層堆積状況 (西から) .....	44
写真 49	庄山中ノ尾遺跡 726 番地近景 (北から) .....	45
写真 50	庄山中ノ尾遺跡 6T 遺構検出状況 (北から) .....	45
写真 51	庄山中ノ尾遺跡 8T 土層堆積状況 (東から) .....	45
写真 52	庄山中ノ尾遺跡 4T 全景 (西から) .....	46
写真 53	庄山中ノ尾遺跡 11T 土層堆積状況 (西から) .....	48
写真 54	庄山中ノ尾遺跡 12T 土層堆積状況 (西から) .....	48
写真 55	庄山中ノ尾遺跡 27T 土層堆積状況 (東から) .....	50
写真 56	庄山中ノ尾遺跡 721-1 番地近景 (東から) .....	50
写真 57	庄山中ノ尾遺跡 36T 土層堆積状況 (西から) .....	50
写真 58	庄山中ノ尾遺跡出土遺物 42 .....	51

写真 59	八段遺跡調査地近景（南から）	52
写真 60	刀研遺跡中村惣斎石祠・中村嘉一郎墓（南東から）	57
写真 61	刀研橋（北から）	57
写真 62	刀研遺跡石垣A地点・B地点（北西から）	58
写真 63	刀研遺跡石垣A地点（南西から）	58
写真 64	刀研遺跡石垣B地点・C地点（南から）	58
写真 65	刀研遺跡石垣D地点・D'地点（北西から）	59
写真 66	刀研遺跡石垣D'地点（北西から）	59
写真 67	キャアガラワラ貝塚調査地近景（南西から）	60
写真 68	キャアガラワラ貝塚 1T土層堆積状況（東から）	60
写真 69	キャアガラワラ貝塚 3T土層堆積状況（東から）	61
写真 70	石貫穴観音横穴遠景	62
写真 71	石貫穴観音横穴 1～3号墓（西から）	62
写真 72	石貫穴観音横穴（南から）	64
写真 73	石貫穴観音横穴 1～3号墓（南から）	64
写真 74	石貫穴観音横穴 1号墓	64
写真 75	石貫穴観音横穴 2号墓	64
写真 76	石貫穴観音横穴 2号墓内部	64
写真 77	石貫穴観音横穴 3号墓	64
写真 78	石貫穴観音横穴 4号墓	64
写真 79	石貫穴観音横穴 5号墓	64
写真 80	高城遺跡 1T土層堆積状況（南西から）	67

## 表 目 次

第 1 表	平成 20 年度埋蔵文化財試掘・確認調査等一覧	4
第 2 表	平成 20 年度市内遺跡出土遺物観察表	68



## I 調査の概要

## 1 調査の体制

調査及び報告書の作成は、下記の体制により実施している。職員の所属等は、当時のものである。

## 平成20年度

調査主体	玉名市教育委員会
調査責任	教育長 菊川茂男
調査総括	教育次長 前田敏朗 文化課長 中山富雄 課長補佐 中川英夫 課長補佐 山 秀則
庶務担当	文化財係長 安田信孝 主事 永野摩美子
調査担当	主任 兵谷有利 主任 田中康雄 主任 末永 崇 主任 中村安宏 主任 藪父雅史 調査員 古閑敬士 調査員 大倉千寿

## 平成21年度（報告書作成）

調査主体	玉名市教育委員会
調査責任	教育長 菊川茂男
調査総括	教育次長 前田敏朗 文化課長 中山富雄 課長補佐 岩次次郎
庶務担当	文化財係長 安田信孝 主事 永野摩美子
報告書担当	主任 中村安宏 調査員 大倉千寿

## 2 調査の方法

試掘・確認調査については、重機掘削により幅0.7～1m程度のトレンチを設定しており、重機が使用不可能な場合や、包含層の一部、遺構については人力掘削を行っている。対象面積に対する掘削面積やトレンチ設置位置については、特に基準等を定めていないが、開発の内容、予想される遺跡の内容及び地形等を勘案して適宜設定している。

実測図は、1/20スケールを基本として、平面図及び断面図を作成している。トレンチの配置図等については、基本的に開発に伴う測量図及び字図等に記入する形をとっている。地形測量図等が必要な場合には、平板及びトータルステーションを使用して、1/100スケール若しくは1/200スケールで作成することになっている。

写真は、通常35mmカラーネガを用いており、重要な遺構等が確認された場合は、35mmモノクロ及びリバーサルフィルムによる撮影を行う事になっている。また、一部デジタルカメラによる撮影も行っている。



写真1 調査風景

## 3 調査総括

玉名市では、平成11年度より、国及び県の補助を受け、各種開発に伴う埋蔵文化財試掘・確認調査等を行っている。

平成20年度は、事前審査253件中、文化財保護法第93・94条による届出・通知数が134件であった。当該年度は確認調査22件、試掘調査4

## I 調査の概要

件、測量調査1件、合計27件を行った。

調査原因は、専用住宅、共同住宅建設に伴う小規模なものが多いが、大型店舗建設や玉名市役所新庁舎建設、道路改築等の公共事業に伴う試掘・確認調査も行った。

地域的には、住宅集中地域である玉名町校区及び築山校区が多い。

玉名町校区では、高瀬藩邸・藩丁跡、亀甲遺跡、岩崎原遺跡及び南出遺跡の確認調査を行い、亀甲遺跡では、ふいご羽口や鉄釘が採取された。

築山校区では、山田神社門前遺跡、高岡原遺跡、山田松尾平遺跡、蓮華遺跡及び八段遺跡の確認調査を行った。

石貫校区では、市道拡幅に伴い幕末の熊本藩士（玉名郡代）で能楽の肥後金春流の家元でもある中村家の中村恕齋に關係する屋敷跡の石垣実測調査及び国史跡石貫六観音横穴の地形測量調査等を行った。

伊倉校区では、中北遺跡の確認調査を行い、木棺墓1基等を検出した。

岱明町庄山では、大型店舗建設予定に伴い試掘調査を実施し、古墳時代の住居跡や土師器等が出土したため、庄山中ノ尾遺跡として遺跡地図に新規掲載された。

同じく岱明町では市道岱明玉名線建設予定に伴う大原遺跡及び塚原遺跡の確認調査を行った。大原遺跡では住居跡の一部とみられる部分が確認され、埋土中から弥生土器片や磨製石斧が出土した。

大浜校区では末広開堤防跡の分布調査を行った。

北牟田及び横島町の試掘・確認調査では自然堆積した貝殻が混じる粘性土を確認した。

## 4 活用

玉名市では、市内遺跡の試掘・確認調査とその結果を年度ごとに報告しているが、その成果は、毎年展示公開を行っている。これまでに、玉名市立歴史博物館こころピアにおいて「たまな発掘速報展」と題して過去3回展示している。

内容は、玉名の歴史を発掘調査の結果によって探ろうというもので、時代区分を縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世に分けて、時代ごとに調査によって出土した遺物を中心に展示するものである。また、特設コーナーとして、新たに発見された遺跡の紹介や、新幹線関係の調査速報、合併により玉名市の指定文化財となった文化財の紹介等も行った。

また、小学生でも理解しやすいように解説文を簡潔にし、写真パネルなどを多く使用して埋蔵文化財を身近に感じられるような展示にした。毎年、展示期間は、約1ヵ月半であるが、市民のほかにも小中学校からの社会科見学、県外からの団体客を含めて、平成20年度の期間中の博物館来場者数は約1,700人であった。

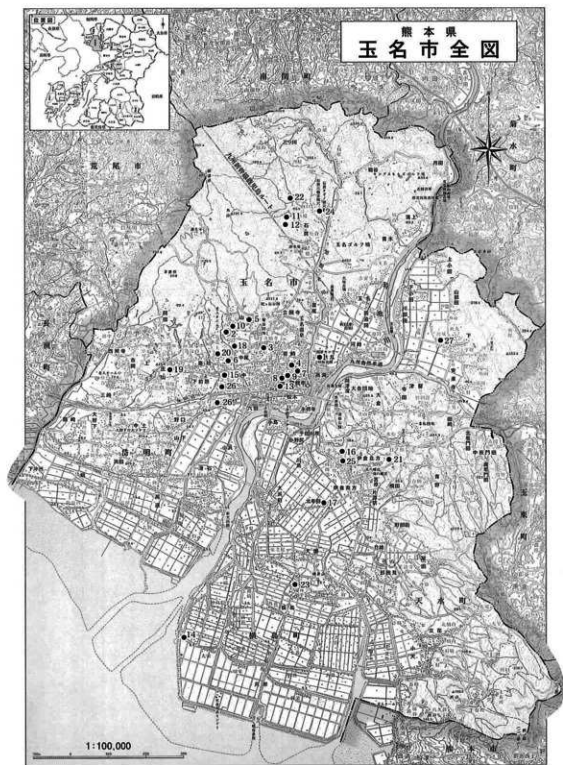
また、「埋蔵文化財Q&A」というパネルを作成し啓発を行っている。

さらに発掘調査時には、なるべく現地説明会を行うようにしており、現場近くに小学校などがあれば、呼びかけを行い社会科授業の一環として、見学会を行うなど学校教育と連携した活動も行っている。



写真2 たまな発掘速報展展示状況

# I 調査の概要



- |               |                   |                 |
|---------------|-------------------|-----------------|
| 1 玉名平野条里跡     | 10 山田神社門前遺跡B地点    | 19 庄山中ノ尾遺跡      |
| 2 山田神社門前遺跡A地点 | 11 広福寺門前遺跡        | 20 八段遺跡         |
| 3 高岡原遺跡       | 12 石貫農業用溜池予定地     | 21 伊倉宮の後遺跡      |
| 4 高瀬藩邸・藩丁跡A地点 | 13 南出遺跡           | 22 刀研遺跡         |
| 5 山田松尾平遺跡     | 14 末広開堤防跡         | 23 キャアガラワラ貝塚    |
| 6 運筆遺跡        | 15 大原遺跡A地点        | 24 石貫穴観音横穴      |
| 7 高瀬藩邸・藩丁跡B地点 | 16 中北遺跡A地点        | 25 中北遺跡B地点      |
| 8 亀甲遺跡        | 17 北牟田給油所予定地      | 26 大原遺跡B地点/塚原遺跡 |
| 9 岩崎原遺跡       | 18 都市計画道路境川山田線予定地 | 27 高城遺跡         |

第1図 平成20年度調査地位位置図





## Ⅱ 平成20年度の調査



### 1 玉名平野条里跡

所在地：岩崎字川原 267 外 20 筆

調査原因：調査依頼

対象面積：20,199 m<sup>2</sup>

調査期間：平成 20 年 4 月 21 日～5 月 7 日

担当者：兵谷有利・大倉千寿

調査地は、菊池川右岸の玉名平野西部、標高4～5m程の地点に位置する。平成19年度に玉名市役所新庁舎建設に伴う確認調査を行うことになったが、耕作物の収穫時期等の都合により、年度内の調査終了が困難であったことから、平成20年度も継続して調査を行った。調査区内に26本のトレンチを設定したうち、11本を平成20年度に、1本を平成19年度に調査した部分より延長して掘削した。

調査の結果、現代の水田面から70～90cmの深さにかけて旧水田面や畦状を呈する盛り上がり確認でき、中世以降の水田跡と考えられる。現況面から110～130cmの深さにかけては、遺物の出土量は非常に少ないが、中世以前の畦状を呈する盛り上がり確認され、平成19年度の調査時には、杭列遺構も確認されている。平成20年度の調査では、前年度に確認された杭列遺構の延長上のトレンチに、多数の流木が確認されている。

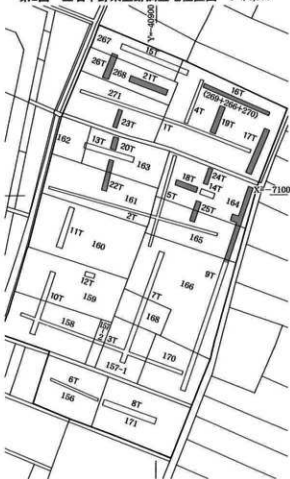
詳細な調査結果については、発掘調査終了後に刊行予定の調査報告書に掲載予定である。



写真3 玉名平野条里跡調査地近景(西から)



第2図 玉名平野条里跡調査地位置図 S=1/5,000



第3図 玉名平野条里跡トレンチ配置図 S=1/2,000

■平成20年度調査部分

## 2 山田神社門前遺跡A地点

所在地：山田字下馬場 288-1

調査原因：共同住宅建設

対象面積：1,238.34㎡

調査期間：平成20年4月22日～5月1日

担当者：末永 崇

調査地は、小代山から南に広がる低丘陵上に位置する標高24m程の地点である。敷地の北側に俊教坊、南側に壇之坊が存在する。

今回の調査では、敷地内の4箇所にトレンチを設置し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。1トレンチでは、I層からIV層までを確認した。このうちIII層上面でピットを4基確認した。2トレンチでは、I・II層とA～C層、V層を確認し、B層で土器細片を少量検出した。3トレンチでは、I層からVII層までを確認し、III層からIV層で土器片を検出した。特にIV層で弥生時代とみられる土器片が多く出土しており、遺構の可能性もある。4トレンチではI層からVII層までを確認し、III層上面でピットを検出した。敷地内全体の層位状況は、I層とII層は耕作土で各トレンチ共通であるが、III層以下は対応しない。おおむね礫片交じりの褐色砂質土の上に褐色ローム層が堆積している。



第4図 山田神社門前遺跡A地点調査位置図 S=1/5,000



第5図 山田神社門前遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



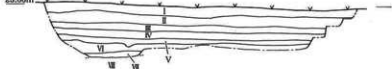
写真4 山田神社門前遺跡A地点3T土層堆積状況(北から)



## II 平成20年度の調査

### 3T南壁

23.00m



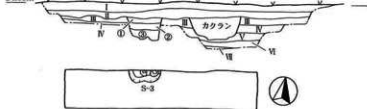
### 3T

I・II 1Tと同一。

- III 暗褐色土(7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。粘土、炭化物を少量含む。土層片を少量含む。
- IV 黒褐色土(7.5YR3/1) しまりがあり、粘性を有す。粘土、炭化物を含む。礫片を含む。土層片を少量含む。
- V 黒色土(7.5YR2/1) しまりがあり、粘性を有す。粘土、炭化物を含む。土層片を少量含む。
- VI 暗褐色土(7.5YR3/3) しまりがあり、粘性を有す。土層片を多く含む。
- VII 暗褐色土(7.5YR3/2) しまりがあり、粘性を有す。礫の層状部。遺物は検出されず。
- VIII 褐色土(7.5YR4/6) しまりがあり、弱い粘性を有す。砂質土。遺物は検出されず。

### 4T西壁

24.00m



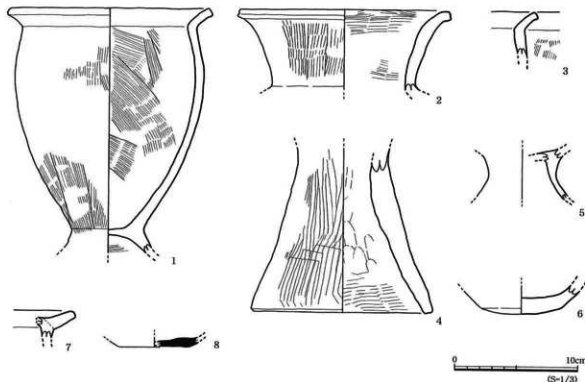
### 4T

I・II 1Tと同一。

- III 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりがあり、粘性を有す。炭化物をごく少量含む。
- IV-VI 暗褐色土(7.5YR2/3) しまりがあり、粘性を有す。下部ほど粘性が弱くなる。炭化物をごく少量含む。遺物検出されず。
- VII 褐色土(7.5YR4/3) しまりがあり、粘性を有しない。やや砂質。黒炭層と判断される。
- S-3埋土 ①黒褐色土(7.5YR2/2) しまりがあり、粘性を有す。全体に粘土、炭化物を含む。土層細片出土。
- ②暗褐色土(7.5YR3/2) しまりがあり、粘性を有す。全体に粘土、炭化物を含む。
- ③黒褐色土(7.5YR3/1) しまりがあり、粘性を有す。全体に粘土、炭化物を含む。

第7図 山田神社門前遺跡A地点トレンチ実測図②

0 2m  
(S=1/80)



第8図 山田神社門前遺跡A地点出土遺物実測図

### 3 高岡原遺跡

所在地：山田字高岡原2006-2、2010-3、2013-1、  
2013-2

調査原因：店舗建設

対象面積：2,044.12㎡

調査期間：平成20年5月30日～6月25日

担当者：藤父雅史

調査地は、小代山から南に緩やかに延びる丘陵上に位置する標高28m程の地点である。

平成20年2月に同地点で確認調査を行っているが、埋蔵文化財が確認されたため、今回、工事により基礎掘削が行われる部分について再度調査を行った。前回のトレンチと混同しないように、A～Iまでのアルファベットを付けた。

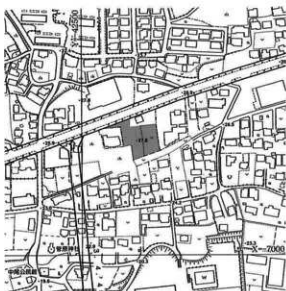
土層は前回の調査と対応し、I～V層が確認され、I層は砕石や表土、II層は山砂による盛土層、III層は攪乱を受けた後の埋土層、IV層は包含層と思われるが部分的にしか残存しない。V層がローム土の無遺物層である。

基本的に全体が攪乱を受けているが、遺構はピット数十基と、B、G、H、Iトレンチにおいて土坑が6基、Cトレンチに溝状の遺構が1基確認された。

このうちGトレンチの東側では、土坑墓と思われる遺構が1基あり、平成14年度に東側隣接地で箱式石棺と思われる石材が出土しているように、周辺には当遺跡に伴う墓域があったことも考えられる。

調査区の南側は、古代まで遡る可能性がある道路跡(山田村道)が東西方向に延び、Dトレンチにおいて、道路北側の路肩にあたる部分の落ち込みが検出された。

全体的に遺物は弥生土器片が少量であり、遺構の中からもほとんど出土しなかったが、包含層中より、旧石器時代の尖頭器が1点出土した。付近の糠峯遺跡からも出土例があることから、今後注意が必要である。



第9図 高岡原遺跡調査地位置図 S=1/5,000

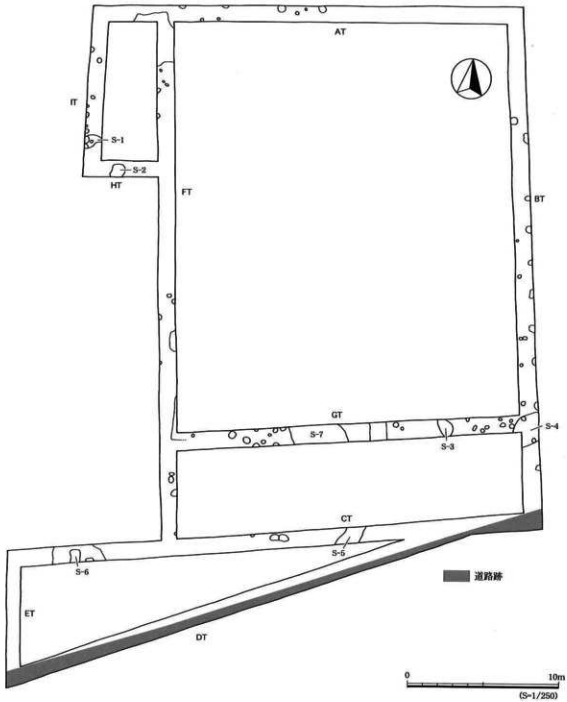


第10図 高岡原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真5 高岡原遺跡調査地近景(南西から)

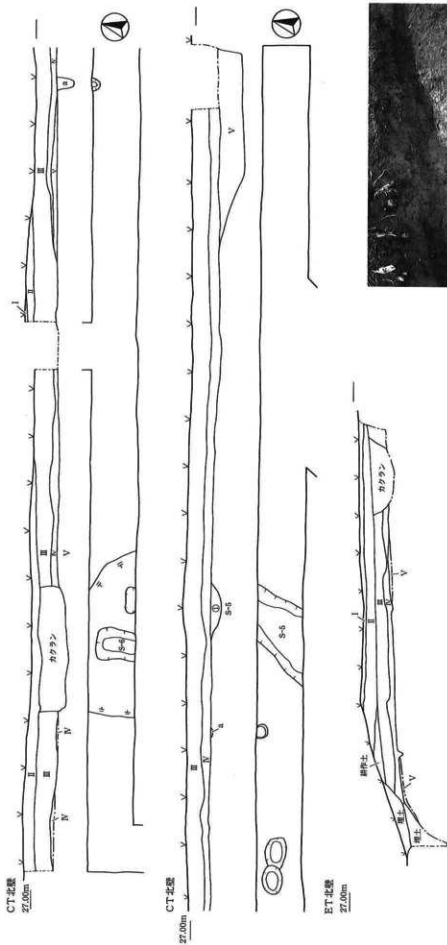
II 平成20年度の調査



第11図 高岡原遺跡遺構配置図



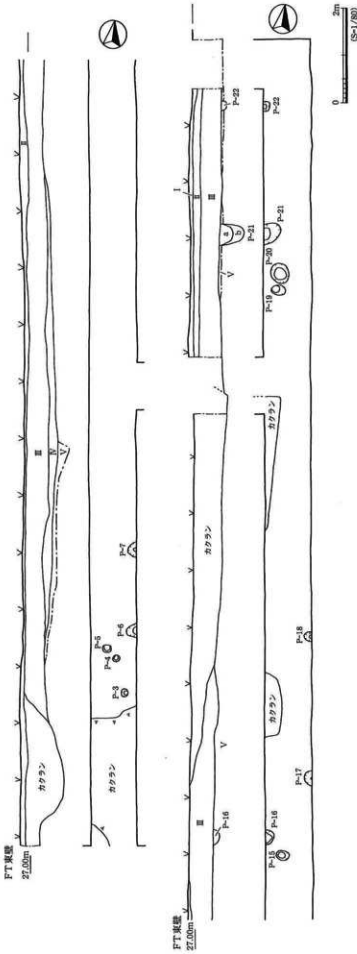




CT  
a 褐色土(IV)の70% あまりしぼりがない、やや粘性を有す。ローン土を数割に少量混入。  
S-5 黒褐色土(IV)の70% しまりがなく、やや強い粘性を有す。黒色小石を少量混入し、黒土層が混入する。

第13図 高岡原遺跡トレンチ実測図②

写真6 高岡原遺跡S-5発掘状況(南から)



FT  
 P-16 暗褐色土(10YR2/3) しまりが無く、わずかに根柱を有す。炭化物が少量混入する。  
 P-20 暗褐色土(7.5YR2/3) ややしまりがあり、わずかに根柱を有す。炭化物が微量混入する。  
 P-21 a により、黄褐色土(10YR6/3) わずかに根柱を有す。黒砂土が混入する。  
 b 暗褐色土(10YR2/3) aよりもしまりが強く、共に根柱も無い。  
 P-22 暗褐色土(10YR2/3) わずかに根柱を有す。ローム土を底状に含む。

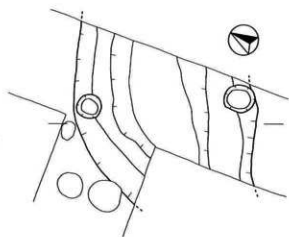


写真7 高岡原道路Fトレンチ状況(南から)

第14図 高岡原道路トレンチ発掘図③



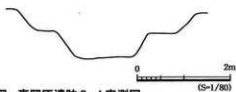
II 平成20年度の調査



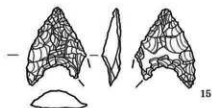
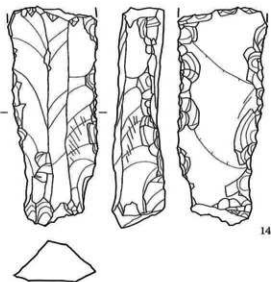
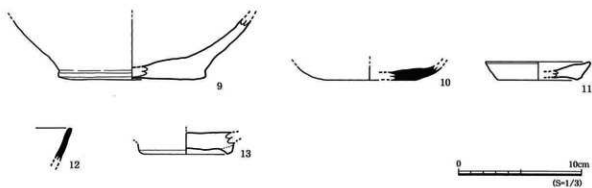
27.00m



写真8 高岡原遺跡S-4完掘状況(西から)



第16図 高岡原遺跡 S-4 実測図



第17図 高岡原遺跡出土物実測図

4 高瀬藩邸・藩丁跡A地点

所在地：岩崎字中岩原 1120

調査原因：調査依頼

対象面積：19,070.89㎡

調査期間：平成20年6月23日～26日

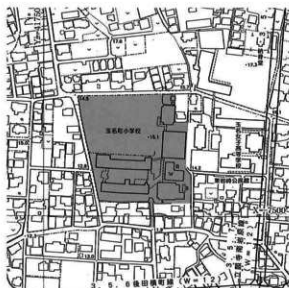
担当者：大倉千寿

調査地は、玉名市街地の中心に位置する標高15mの地点で、現況は運動場である。幕末の高瀬藩邸・藩丁跡として造成されており、周辺では過去に数回の確認調査が行われている。

学校施設建設に伴い、調査地内に15本のトレンチを掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、各トレンチでⅠ～Ⅳ層を確認した。Ⅰ層は表土及び現代の整地層である。5トレンチを除く14本のトレンチではⅡ・Ⅲ層は無遺物層である岱明層であり、遺構や遺物は確認されなかった。5トレンチはそのほかのトレンチと1m程の高低差がある。表土の約5cm下から既存建物の基礎部分と考えられる攪乱を検出し、それ以外のⅡ～Ⅳ層は無遺物層まで掘削されており、埋蔵文化財が残存している可能性は低いと考えられる。

その後、文化財保護法第94条による通知が提出されたが、今回の結果によって、調査後の措置は慎重工事となった。



第18図 高瀬藩邸・藩丁跡A地点調査地位置図 S=1/5,000



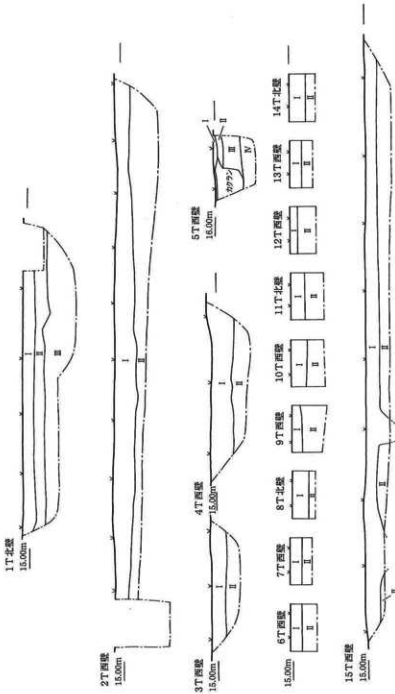
第19図 高瀬藩邸・藩丁跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真9 高瀬藩邸・藩丁跡A地点調査地近景(西から)



写真10 高瀬藩邸・藩丁跡A地点土層堆積状況(東から)



1~4T, 6~15T  
 I 表土、基礎の露出  
 II 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 III 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 IV 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 V 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 VI 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 VII 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 VIII 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 IX 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 X 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 XI 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 XII 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 XIII 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 XIV 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。  
 XV 埋立地(1T, 2T, 3T, 4T) 砂利を有す、悪い砂利、2~5cmの礫を多く含む。



第20図 高瀬灘部・港丁跡A地点トレンチ実測図

### 5 山田松尾平遺跡

所在地：山田字松尾 1453

調査原因：調査依頼

対象面積：272.26㎡

調査期間：平成20年7月3日

担当者：古閑敬士

調査地は、小代山から延びる丘陵上に位置する標高30mの地点で、以前は農業用の小屋が建ち、果樹園として利用されていた。敷地南端付近から南西へと比高約15mの谷が入り込んでいる。調査は造成及び専用住宅建設予定地に3本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、客土及び耕作土以下は花崗岩の風化した砂層であり、遺構・遺物等も確認できなかった。

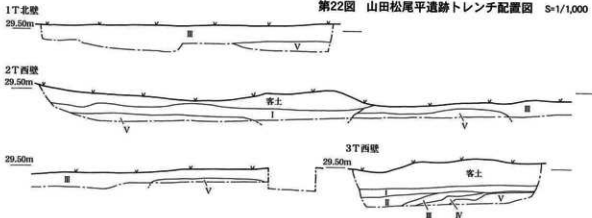
調査後、埋蔵文化財発掘の届出がなされ、その措置は慎重工事であった。



第21図 山田松尾平遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



第22図 山田松尾平遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



- I 黒褐色土(C2.SY3/20) 表土、しまりが弱く、弱い粘性を有す。
- II 淡黄褐色砂(C10Y3S/40) しまりがなく、粘性を有しない、砂層。
- III 暗褐色土(C10Y3/20) ややしまりがあり、弱い粘性を有す。耕作土。
- IV 濃い黄褐色砂(C10Y3S/20) しまりが弱く、弱い粘性を有す。砂層。
- V 濃い黄褐色砂(C2.SY3/20) しまりが弱く、弱い粘性を有す。部分的にシルト質。鉄分が多く入る。砂層。



第23図 山田松尾平遺跡トレンチ実測図



## 6 蓮華遺跡

所在地：築地字南大門 2077-1、2078-1

調査原因：調査依頼

対象面積：475.35㎡

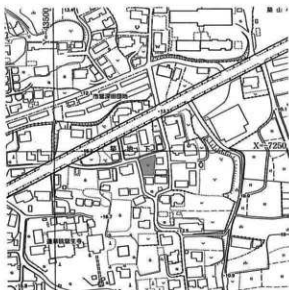
調査期間：平成20年7月10日

担当者：末永 崇

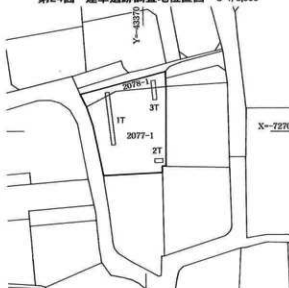
調査地は、小代山から南に延びる低丘陵上に位置する標高約15.5mの地点である。敷地は、中世に存在した寺院である浄光寺の範囲北東側に当たる。

調査では、敷地内に3箇所のトレンチを設定し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。全体の層位は、表土の下が、にぶい黄褐色から褐色のローム層であり、無遺物層と判断した。1トレンチにおいて、近世又は近代の妻が上部を削平された状態で検出された。また、土坑が1基検出され、埋土の状況から妻と同時期と判断される。

1トレンチと3トレンチの北側については、両トレンチとも北側にかけて落ち込みがみられ、東西に延びる溝があったとみられる。埋没時期は、上位にビニール片などが埋まっておりごく最近であるが、下位については時期が判明する遺物はなく判断が困難である。地割は、水路と2078-1番、2077-1番に分かれており、周辺の状況から浄光寺の区画に伴う遺構の可能性が考えられる。



第24図 蓮華遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第25図 蓮華遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真11 蓮華遺跡調査地近景(西から)



写真12 蓮華遺跡1T掘削状況(南から)



### 7 高瀬藩邸・藩丁跡B地点

所在地：岩崎字南岩原 1147-1の一部、1147-2の一部

調査原因：共同住宅建設

対象面積：594.92㎡

調査期間：平成20年7月14日

担当者：兵谷有利

調査地は、玉名市街地の国道208号線北側、標高13m程の地点であり、遺跡内の南側に位置する。また、敷地内は既存建築物解体後に整地されている。

調査は、基礎掘削が行われる部分を中心に埋蔵文化財の確認調査を行った。届出地内に6本のトレンチを設置した。土層は1～5層が確認された。1層は碎石や砂など、現代の造成時の客土であった。2層は近代の客土で2mm以下の砂礫、土器粒を含み非常に締まっている。3層と4層は弱粘質土であった。5層は若干砂質感のあるローム土で無遺物層と判断した。1トレンチでは落ち込みが1箇所、2トレンチではピットが1基確認されたが、そのほかに遺構、遺物は確認されなかった。

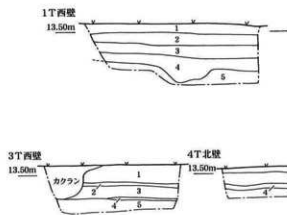
調査後の措置は慎重工事である。



第28図 高瀬藩邸・藩丁跡B地点調査位置図 S=1/5,000

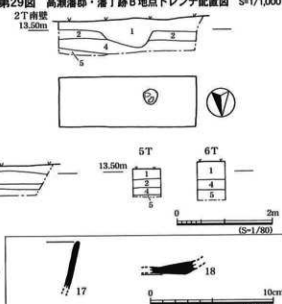


第29図 高瀬藩邸・藩丁跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



- 1 濃い黄褐色土(10YR6/3) 湿土。しまりが強く、コンクリート、礫を多く含む。
- 2 黒褐色土(10YR3/1) しまりがあり、2mm以下の礫土、砂礫、土器粒を含む。
- 3 濃い黄褐色土(10YR5/4) しまりがあり、弱い粘性を有す。
- 4 黒褐色土(2.5YR3/2) 3よりやや強い粘性を有す。
- 5 明褐色土(7.5YR5/6) しまりがあり、ロームに類似するが、若干砂質、弱明暗かつ

第30図 高瀬藩邸・藩丁跡B地点トレンチ実測図



第31図 高瀬藩邸・藩丁跡B地点出土遺物実測図

## 8 亀甲遺跡

所在地：亀甲字北園 232-1

調査原因：調査依頼

対象面積：1,352㎡

調査期間：平成20年7月18日

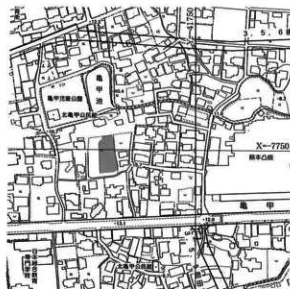
担当者：藪父雅史

調査地は、玉名台地の標高16mの地点に位置している。周辺は、肥後同田貫の刀鍛冶場跡としても知られ、以前から鉄滓等が採集されてきた。南側には歴代刀工の墓が残存している。

工事の事前に確認調査依頼が提出されたため、平成20年7月18日に確認調査を行っている。敷地内に5本のトレンチを設定して埋蔵文化財の確認を行ったところ、1層は耕作土で、ほとんどが竹根に覆われており、2層は褐色土で旧耕作土と考えられ、3層が黒褐色を呈した遺物包含層であった。弥生～中世にかけての土器小片が含まれる。4層は暗褐色土層、5層が明褐色土層で、ローム土の無遺物層と判断した。

遺物は、ほとんど出土しなかったが、1トレンチの南側においては、表面採集でも鉄滓が多く、トレンチ内で確認された近世末と思われるピットからは、鉄滓とふいご羽口、陶磁器片が出土した。さらに下位（V層上面）からは弥生時代と思われるピットを検出した。

今回の工事は、竹を伐採した後に残った根の部分の切土し、畑とするものである。削平を受ける部分は、1層と2層の旧耕作土部分であり、埋蔵文化財に対する影響はないため、今後の措置は慎重工事となった。



第32図 亀甲遺跡調査地位位置図 S=1/5,000

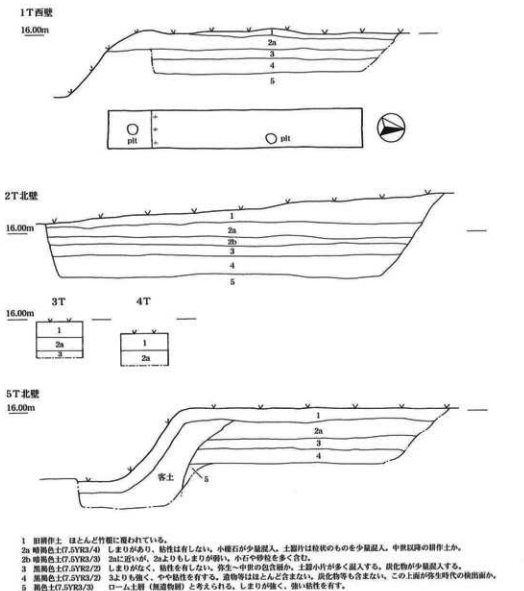


第33図 亀甲遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真15 亀甲遺跡調査地近景(南から)

## II 平成20年度の調査



第34図 亀甲遺跡トレンチ実測図

0 2m  
(S=1/80)

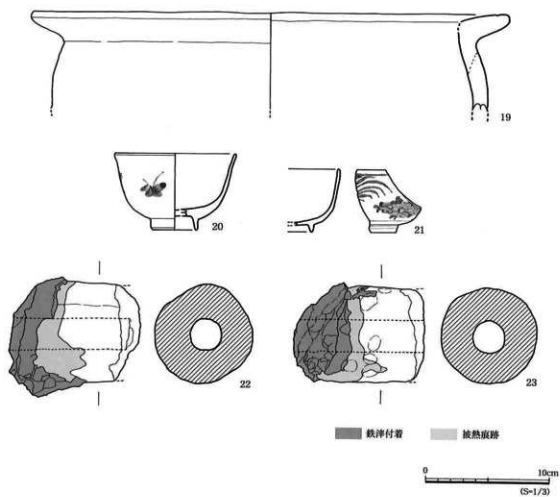


写真16 亀甲遺跡南側斜面遺物散布状況(南から)



写真17 亀甲遺跡2T土層堆積状況(南から)

II 平成20年度の調査



第35図 亀甲遺跡出土遺物実測図



写真18 亀甲遺跡出土遺物22



写真19 亀甲遺跡出土遺物23

### 9 岩崎原遺跡

所在地：亀甲字浦田 279-1

調査原因：専用住宅建設

対象面積：281.22㎡

調査期間：平成20年7月25日

担当者：大倉千寿

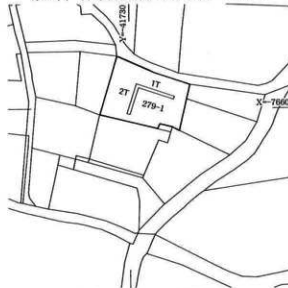
調査地は、繁根木川右岸の台地上に位置する標高約11mの地点で、現状は宅地である。

今回、敷地内に2本のトレンチを設置して確認調査を行ったところ、Ⅰ～Ⅴ層を確認した。Ⅰ・Ⅱ層は表土及び現代の整地層である。Ⅲ～Ⅴ層は暗褐色若しくは褐色を呈する層で、いずれも礫を含むが、遺構や遺物は確認されなかった。

調査後の措置は慎重工事である。



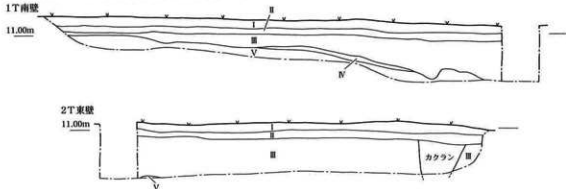
第36図 岩崎原遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第37図 岩崎原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真20 岩崎原遺跡調査地近景(西から)



- Ⅰ 暗褐色土(10YR3/3) 表土。
- Ⅱ 黒褐色土(10YR2/3) しまりがあり、強い粘性を有す。細い砂粒を含む。近・現代の陶磁器片を含む。
- Ⅲ 暗褐色土(7.5YR2/4) 強くしまり、強い粘性を有す。粗い砂粒、1～3cm大の礫を多量に含む。
- Ⅳ 暗褐色土(7.5YR2/4) しまりが弱く、わずかに粘性を有す。1cm大の小礫をわずかに含む。
- Ⅴ 褐色土(5YR4/4) しまりが弱く、粘性を有しない。粗い砂粒、1cm大の小礫をやや多く含む。

第38図 岩崎原遺跡トレンチ実測図

### 10 山田神社門前遺跡B地点

所在地：山田字地藏前1702-1

調査原因：調査依頼

対象面積：941.73㎡

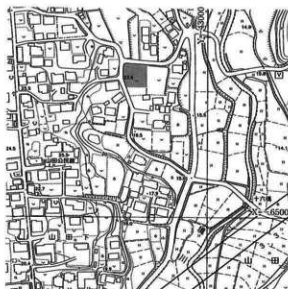
調査期間：平成20年8月7日～18日

担当者：大倉千寿

調査地は、小代山南麓の低丘陵上に位置する標高約24mの地点である。周辺は東側の谷部に下る傾斜地であるが、調査地は平坦に造成されており、畑地として利用されている。

今回の調査では、敷地内に4箇所のトレンチを設定し、I～IV層を確認した。I層は表土で、現在の畑の耕作土である。II層は旧耕作土で、現代の陶磁器片や、1～2cm大の花崗岩小礫を含む。III層は暗褐色を呈する層で、1～3cm大の小礫と、土器小片をわずかに含む。IV層は褐色を呈し、1～3cm大の花崗岩小礫を多く含む無遺物層と判断した。1トレンチでは、地表面から約40cm下のIII層上面で、炭化物と微量の焼土を含むA層を確認したが、遺物が出土しておらず、時期を特定することはできなかった。1・2・4トレンチではII・III層間の一部で黒褐色を呈するa～c層を確認したが、土器小片をわずかに含むのみであった。また、IV層上面でピットを確認したが、根穴の可能性も捨てきれない。3トレンチでもIII層上面でそれぞれ黒褐色と暗褐色を呈するd・e層を確認したが、遺物が出土しておらず、遺構であるとの判断はできなかった。

調査原因は、共同住宅建設に伴う調査依頼であり、調査後に文化財保護法第93条による届出が提出されたが、以上のことから、調査後の措置は慎重工事となった。



第39図 山田神社門前遺跡B地点調査地位置図 S=1/5,000



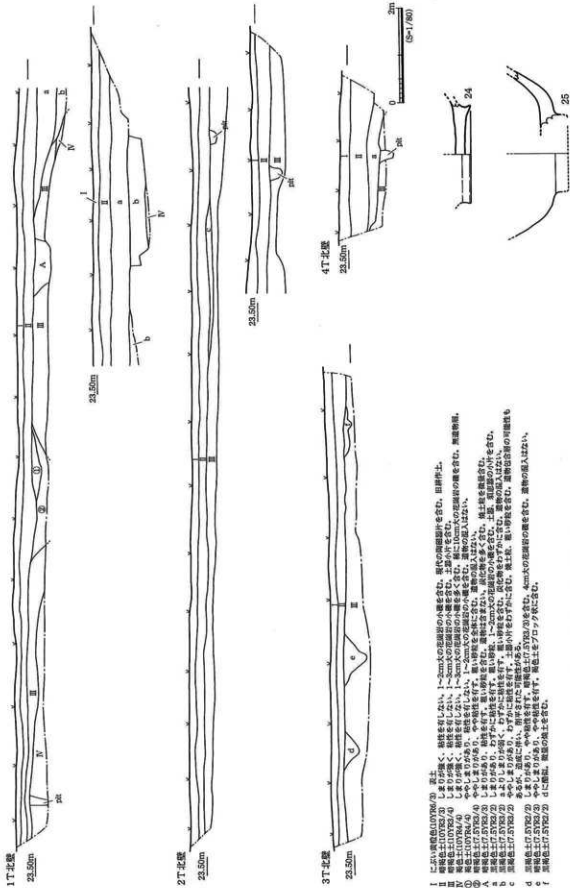
第40図 山田神社門前遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真21 山田神社門前遺跡B地点1T土層堆積状況(北から)



II 平成20年度の調査



第41図 山田神社門前遺跡B地点トレンチ実測図 (S=1/3)

第42図 山田神社門前遺跡B地点出土遺物実測図 (S=1/3)

1 土間  
2 土間  
3 土間  
4 土間  
5 土間  
6 土間  
7 土間  
8 土間  
9 土間  
10 土間  
11 土間  
12 土間  
13 土間  
14 土間  
15 土間  
16 土間  
17 土間  
18 土間  
19 土間  
20 土間  
21 土間  
22 土間  
23 土間  
24 土間  
25 土間

### 11 広福寺門前遺跡

所在地：石貫字清水 1385-1

調査原因：調査依頼

対象面積：2,770 m<sup>2</sup>

調査期間：平成 20 年 8 月 25 日

担当者：田中康雄

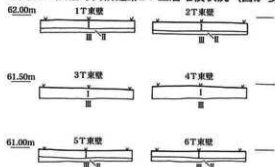
調査地は、菊池川の支流である繁根木川中流域右岸の石貫丘陵性台地上の標高61～62m程の地点に位置する。調査時の状況は、クヌギの植林地であった。

今回の確認調査では、6箇所のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面から25cm程度で黄褐色の地山が検出され、遺構・遺物は確認されなかった。このことから、当地はクヌギの植林の際に切土による造成が行われたものと考えられる。

調査後の措置は慎重工事である。



写真22 広福寺門前遺跡2T土層堆積状況(西から)



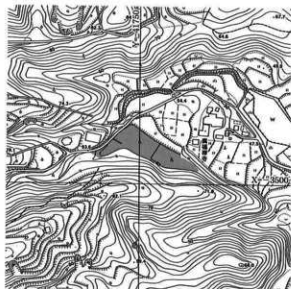
I 暗褐色砂質土(2.5Y4/2) しまりがなく、わずかに粘性を有する。根腐等により層乱を受けている。

II 黄褐色砂質土(10Y5/2) しまりがあり、粘性を有しない。1～2mm大の白色砂粒を含む。

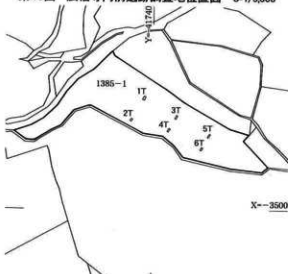
III 黄褐色土(10Y5/0) しまりがあり、わずかに粘性を有する。1～2mm大の白色砂粒、微細な葉面片を含む。黄砂土の2次堆積上と思われる。



第46図 広福寺門前遺跡トレンチ実測図



第43図 広福寺門前遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第44図 広福寺門前遺跡トレンチ配置図 S=1/2,000



第45図 広福寺門前遺跡周辺測量図 S=1/1,200

## 12 石貫農業用溜池予定地

所在地：石貫字浦山 1284、1285

調査原因：調査依頼

対象面積：1,632 m<sup>2</sup>

調査期間：平成 20 年 8 月 26 日

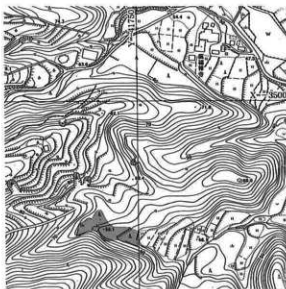
担当者：田中康雄

調査地は、菊池川の支流である繁根木川中流域右岸の石貫丘陵性台地上に位置する標高56～58m程の地点で、台地末端の谷部に形成された扇状地基部に位置する。

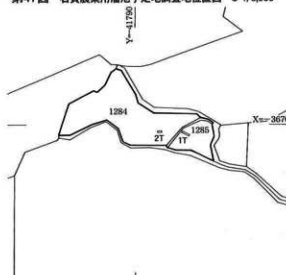
今回の試掘調査では、2箇所のトレンチを設定した。調査の結果、確認した土層すべてが真砂土の2次堆積層であり、埋蔵文化財と考えられる遺構・遺物は確認されなかった。



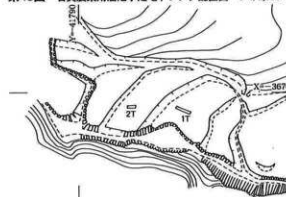
写真23 石貫農業用溜池予定地全景（北から）



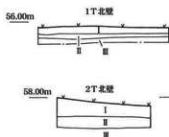
第47図 石貫農業用溜池予定地調査地位置図 S=1/5,000



第48図 石貫農業用溜池予定地トレンチ配置図 S=1/2,000



第49図 石貫農業用溜池予定地周辺測量図 S=1/1,000



- I 明褐色土(10YR6/6) しみがなく、粘性を有しない、1~2mm大の石炭、1mm大の白色砂粒・炭粒片を含む。  
 II 濃い黄褐色土(10YR6/3) しみが有り、わずかにしみが有り、多少粘性を有する。非常に粒子が細かい、繊維状雲母片・白色砂粒を含む。  
 III 黄褐色土(10YR6/6) わずかにしみが有り、多少粘性を有する。粒子が細かい、繊維状雲母片・白色砂粒を含む。II層上をブロック状に含む。



第50図 石貫農業用溜池予定地トレンチ実測図

### 13 南出遺跡

所在地：中宇前13の一部

調査原因：共同住宅建設

対象面積：455.30㎡

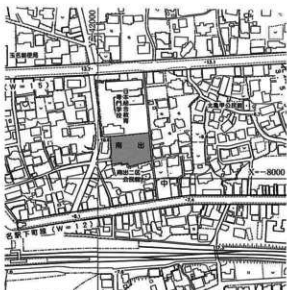
調査期間：平成20年9月4日

担当者：藤父雅史

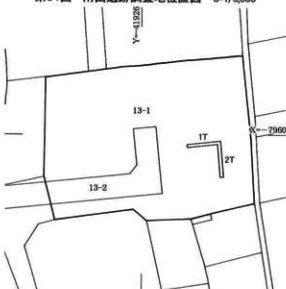
調査地は、玉名駅北東側の標高約14m前後の地点で、玉名台地の南端部に位置している。

今回、敷地内に2本のトレンチを設定して埋蔵文化財の確認を行った。その結果、I～VI層が確認され、I層は山砂による盛土層、II層は客土であった。III層は黄褐色土層で砂粒や土器片を粒状に多く含む。IV層は黒褐色土層で、これにも土器片を粒状に少量含む。V層は、暗褐色を呈し、土器細片を微量に含み、トレンチ内では遺物は少なかったが、弥生時代の包含層に相当するものと考えられる。VI層は褐色のローム土で無遺物層と判断した。特にIII～IV層は古代～中世にかけて整地された層と考えられ、かなり転圧を受けている。この面からの遺構などは確認できなかった。また、VI層の上面からは弥生時代と考えられるピット状の遺構を5基検出した。

今回の工事は、共同住宅の新築工事である。駐車場として計画されている範囲で切土が生じるが、調査の結果からI～VI層までの範囲であるため、埋蔵文化財に対する影響はないものと判断される。建物の基礎部分も浅く、盛土や客土内に収まるため、今後の措置は慎重工事となった。



第51図 南出遺跡調査地位位置図 S=1/5,000

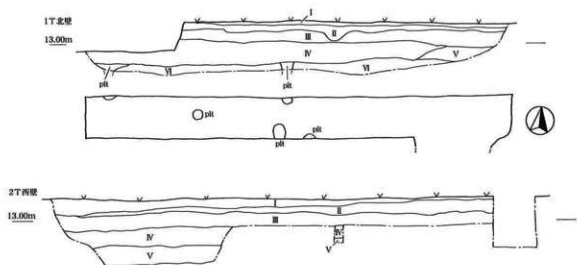


第52図 南出遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



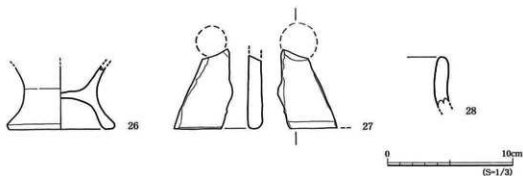
写真24 南出遺跡調査地近景(南から)

## II 平成20年度の調査



- I 山砂(黄土)
- II 灰褐色土(T.SYR4/1) 本回の客土か、しまりがある。
- III 濃い黄褐色(10YR5/4) しまりがかなり強く、人為的、砂粒(1~5mm大)をやや多く含む。中層までの土層片を散状にやや多く含む。
- IV 黒褐色土(T.SYR3/2) しまりがかなり強く、わずかに粘性を有す。砂粒(5mm大)を少量含む。中層以前までの土層片を散状に極少量混入。
- V 暗褐色土(10YR3/3) しまりが強く、やや強い粘性を有す。白色の磁器片を少量含む。土層片を散状に少量含む。
- VI 黒褐色土(T.SYR4/4) しまりが強く、わずかに粘性を有す。礫石(1~5mm大)を少量含む。炭化物類、下層ほど明るい色になる。

第53図 南出遺跡トレンチ実測図



第54図 南出遺跡出土遺物実測図



写真25 南出遺跡1T土層堆積状況(南から)



写真26 南出遺跡2T土層堆積状況(南西から)

#### 14 末広開堤防跡

所在地：大浜町字末広開 4099 地先

調査原因：水路・河川改修

対象面積：12,000 ㎡

調査期間：平成 20 年 10 月 8 日～

平成 21 年 3 月 31 日

担当者：末永 崇

調査地は、菊池川左岸下流の干拓地である末広開の堤防部分である。南側の堤防約 1.2km は、熊本県重要文化財に指定されている。末広地区排水対策特別事業及び明辰川河川改修事業に伴い堤防及び樋門全体の踏査を行った。

末広開は、明治 28 (1895) 年、地元の地主らによって築造された干拓地で、烏帽子開の南側に約 122ha が開かれた。昭和 21 (1946) 年に国営事業として横島干拓が着手され、昭和 42 (1967) 年に潮止めが完了するまで第一線の干拓地であった。大正 3 年、昭和 2 年などの潮害で堤防が壊滅し、復旧・補強されて現在に至る。

末広開の堤防は、菊池川側が約 1.4km、南側が約 1.2km、明辰川側が約 1km の総延長約 3.5 km が築かれている。菊池川側は現代に補強された現役の堤防であり、烏帽子開に接続する北側の 200m 程は、末広開の西側に有明開が大正 2 (1913) 年に築造されたので、その時点で第一線の堤防としての役目を終え、以後改修されていないと考えられ最も古い時期の状況を保っている。平成 20 年度に堤防の南西部分において、水路掘削に伴う調査が行われ堤防の断面の状況が確認された。

南側の東西約 1.2km の堤防は、道路面からの高さ約 4.5m を測り、埋没している基礎部分を含めると約 6.7m を測る。堤防の石積みは上半部と下半部に分けて構築されており、西側から 100m 程は上半部が布積、それ以外は谷積である。下半部はほぼ全て布積である。堤防の中央付近には「末広ホゲ」と呼ばれる池があり、その部

分の堤防下半部前面には、補強のための鞘石垣が約 50m に亘って築かれている。下半部の一部には谷積がみられるが、鞘石垣で覆ってあるため全体の範囲は確認できない。使用されている石材は、上半部は砂岩、下半部は安山岩が多い。

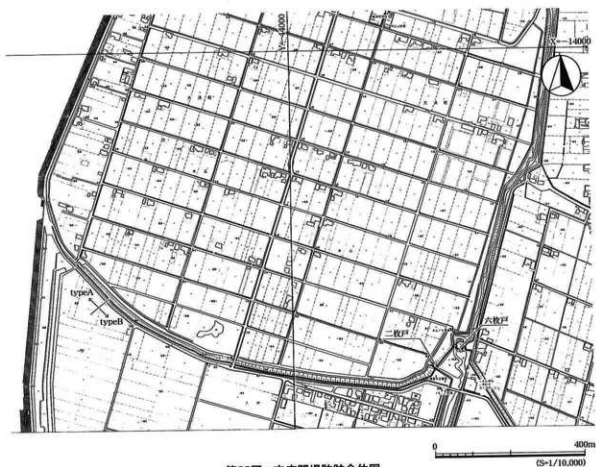
末広開樋門は、末広開の南東側、末広開堤防が明辰川堤防と接続する地点に設置されており、「六枚戸」と呼ばれる通水路が 3箇所 の樋門 2 基と、「二枚戸」と呼ばれる通水路 2箇所 の樋門から成る。特に六枚戸は、玉名市域の樋門では最も規模が大きく、二枚戸と共に非常に保存状態が良い。昭和 2 年の潮害後に堤防と共に改修されている。六枚戸付近の一角には樋門管理用の小屋が置かれていたが、現在はなくなっている。

六枚戸は、北側にある末広開の小規模な樋門からの排水と明辰川の排水を行い二枚戸は末広開から直接明辰川に排水を行う。いずれもフラップゲート方式で排水時には開き、増水時には閉じて海水の浸入を防ぐ機能を有していた。現在六枚戸は扉が失われており、二枚戸はワイヤー巻上げ式の鋼鉄製扉が設置されている。六枚戸東側にはワイヤー巻上げ式の可動堰とコンクリート U 字溝が設置され、一時期農業用水として取水されていた。

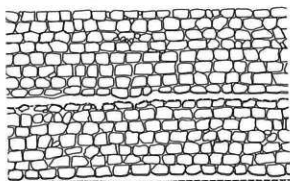
六枚戸の構造及び規模については、東西に三枚戸を配置し、高さ約 6.8m、全体の長さ約 35m を測る。それぞれの三枚戸の通水路の幅は西が約 6.4m、東が約 5.8m である。石材は安山岩と砂岩の切石を布積しており、西側の三枚戸には通水路の仕切り壁などにコンクリートが使用されている。

二枚戸は、高さ約 7.2m、通水路の幅約 4.6m を測る。石材は安山岩と砂岩の切石を布積し、樋門両側の上半部は谷積となっている。二枚戸の南側には、幅約 3m、長さ約 48m の防波堤が築かれている。

II 平成20年度の調査



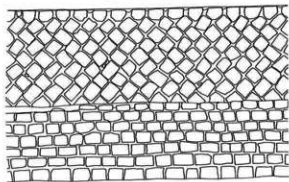
第55図 末広開堤防跡全体図



石積typeA略測図



写真27 石積typeAの部分



石積typeB略測図



写真28 石積typeBの部分

II 平成20年度の調査



写真29 六枚戸海側(南東から)



写真30 六枚戸陸側(北西から)



写真31 六枚戸西(海側)



写真32 六枚戸西(陸側)



写真33 六枚戸東(海側)



写真34 六枚戸東(陸側)



写真35 二枚戸海側①(東から)



写真36 二枚戸海側②(東から)



### 15 大原遺跡A地点

所在地：岱明町野口字大原 536-2、535-5

調査原因：調査依頼

対象面積：670.20㎡

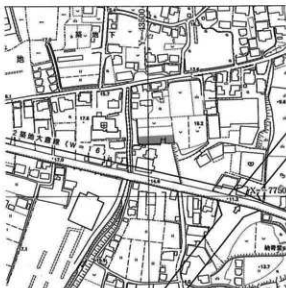
調査期間：平成20年10月20日、21日

担当者：末永 崇

調査地は、小代山から南側に延びる低丘陵上に位置する標高約17mの地点である。

南側に隣接するレストランの敷地では、弥生時代の住居跡群と箱式石棺12基が検出された。また、国道208号線を挟んだ南側周辺では、箱式石棺と共に木棺墓が検出されており、弥生時代の墳丘墓と考えられる。

調査では、敷地内の2箇所にトレンチを設定し、重機及び人力で掘削して埋蔵文化財の状況を確認した。層位はI層からVI層までを確認した。I層からIV層までは、耕作に伴う層とみられ、V層は黒褐色を呈す粘性土で土器細片が観察された。VI層は褐色を呈すローム層で、無遺物層と判断した。1トレンチでは、V層上面で黒褐色土を埋土とする小穴2基を検出した。2トレンチでは、VI層上面で土坑2基と小穴4基と黒褐色土を埋土とする範囲2箇所を検出し、住居跡の可能性が考えられる。その一部(S-1)を部分的に掘削したところ、埋土中から弥生土器が出土した。



第56図 大原遺跡A地点調査地位位置図 S=1/5,000

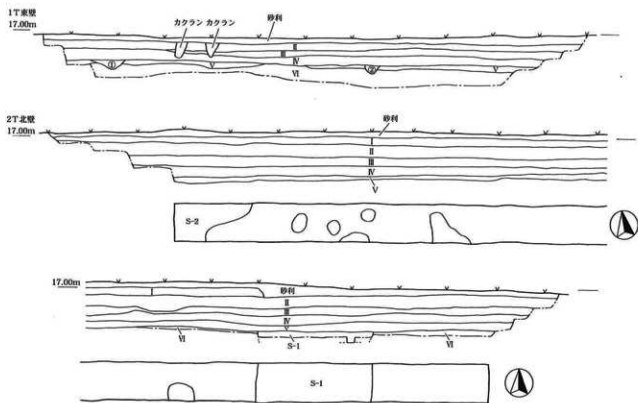


第57図 大原遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000



写真37 大原遺跡A地点調査地近景(北から)

## II 平成20年度の調査



1 T

Ⅰ 灰褐色土(7.5YR5/4) しまりが強く、粘性を有しない。

Ⅱ 褐色土(7.5YR4/6) しまりがあり、粘性を有しない。砂粒を全体に均等に含む。

Ⅲ 暗褐色土(7.5YR3/3) しまりがあり、強い粘性を有す。砂粒を全体に均等に含む。

Ⅳ 黒褐色土(7.5YR2/1) しまりがあり、粘性を有す。細かい土層片を含む。

Ⅴ 褐色土(7.5YR4/6) しまりがあり、粘性を有す。ローム質。土層片なし。

Ⅵ 黒褐色土(7.5YR2/2) しまりがあり、粘性を有す。土層片を含む。

2 T

Ⅰ 黒褐色土(7.5YR5/1) しまりが強く、やや粘性を有す。

ピット 黒褐色土(7.5YR3/2) しまりがあり、粘性を有す。

S-1 褐色土(7.5YR2/3) しまりがあり、粘性を有す。土層片を多く含む。

S-2 黒褐色土 土層片を含む。

第58図 大原遺跡A地点トレンチ実測図



第59図 大原遺跡A地点出土遺物実測図



写真38 大原遺跡A地点1T土層堆積状況(西から)



写真39 大原遺跡A地点S-2検出状況(西から)

16 中北遺跡A地点

所在地：伊倉北方字堀口 868

調査原因：調査依頼

対象面積：1,348 m<sup>2</sup>

調査期間：平成20年10月28日、29日

担当者：中村安宏

調査地は、菊池川左岸伊倉丘陵性台地の標高28m程の地点に位置する。

周辺では、数回、確認調査が行われている<sup>1)</sup>。

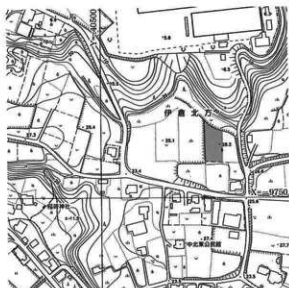
農地造成（土砂採取）計画に伴い、事前に確認調査依頼が提出されたため、平成20年10月28日及び29日に確認調査を行った。

調査では、依頼地内の5箇所にトレンチを設置した。

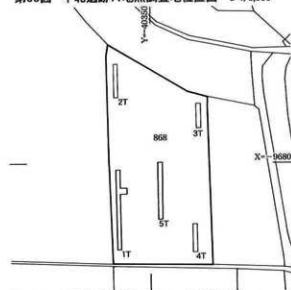
I層は表土、II層は耕作土である。III層は遺物小破片、木炭、砂粒及び茶褐色粒子を含む層である。IV層は遺物小破片、木炭及び砂粒を含む層でありIII層よりも黒く、1トレンチの木棺墓の検出面である。V層は褐色土ローム土であり、トレンチの壁面から土器が出土した。VI層は褐色土ローム土の無遺物層であり、VII層はにぶい褐色土でややピンク色をしている。a層は暗褐色土で砂粒子を含む1トレンチの落込み遺構の埋土であり、b層は褐色土でVの土をブロック状に含む1トレンチの木棺墓の埋土である。調査の結果、1トレンチにおいて木棺墓1基、穴状遺構4基、落込み状遺構2基を検出し、検出した遺構については完掘した。2～5トレンチにおいては埋蔵文化財を確認することができなかった。

後日、埋蔵文化財発掘の届出が提出され、確認調査において、遺構及び遺物が出土したのは1トレンチのみであり、遺構密度も低いため今後の措置は、工事立会となった。

注) 養父雅史 2006「10中北遺跡(A地点I区)」「11中北遺跡(B地点II区)」『玉名市内遺跡調査報告書』玉名市文化財調査報告第15集 玉名市教育委員会



第60図 中北遺跡A地点調査地位位置図 S=1/5,000



第61図 中北遺跡A地点トレンチ配置図 S=1/1,000

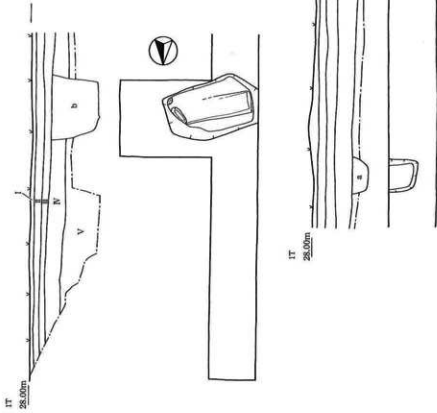


写真40 中北遺跡A地点調査地全景(西から)

II 平成20年度の調査



写真41 中北遺跡A地点IT遺構完復状況(南から)

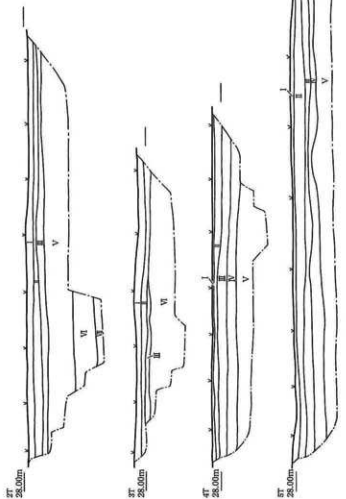


第62図 中北遺跡A地点トレンチ実測図①





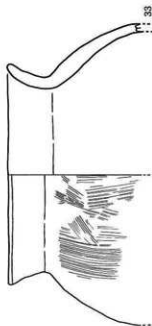
写真42 中北遺跡A地点木棺墓完照状況(北東から)



1 粘土 しまりがなく、粘性を有しない。小石、砂粒混入。  
 2 黒土 しまりがなく、粘性を有する。遺物小片、木炭、砂粒および炭屑を伴う。  
 3 黒褐色土(75761/7) ややしまりがあり、粘性を有する。遺物小片、木炭、砂粒および炭屑を伴う。  
 4 黒褐色土(75762/7) ややしまりがあり、粘性を有する。遺物小片、木炭、砂粒および炭屑を伴う。  
 5 黒褐色土(75763/7) しまりが強く、強い粘性を有する。ローソク土の黒炭屑、IVよりも厚れている。  
 6 黒褐色土(75764/7) しまりが強く、強い粘性を有する。ローソク土の黒炭屑、IVよりも厚れている。  
 7 黒褐色土(75765/7) ややしまりがあり、粘性を有する。砂粒を伴う。  
 8 黒褐色土(75766/7) しまりがあり、粘性を有する。Vの上をブロック状に含む。

第63図 中北遺跡A地点トレンチ実測図②

0 2m  
(S-17/80)



0 10cm  
(S-17/3)

第64図 中北遺跡A地点出土遺物実測図

### 17 北牟田給油所予定地

所在地：北牟田字居屋敷 32-1、32-2、32-3

調査原因：調査依頼

対象面積：8,811 m<sup>2</sup>

調査期間：平成20年10月30日、31日

担当者：古閑敬士

調査地は、北牟田集落の東側、第二次世界大戦当時は玉名飛行場の範囲内であった。標高約2mの高さで、調査前は水田であった。また、南東約200mに発掘調査が行われた中世の「北牟田塚」がある<sup>43)</sup>。

工事は土壌改良後に給油所を建設するもので、周知の埋蔵文化財範囲外だが、開発予定面積が8,811m<sup>2</sup>と広いため、試掘調査を行った。重機で4本のトレンチを掘削し、人力で壁面の清掃を行い、埋蔵文化財の有無を確認した。

その結果、水田や干拓の造成と見られる土の下は自然に堆積したカキ殻の層であった。また、この層からは大量の湧水があった。遺構・遺物は確認されなかった。

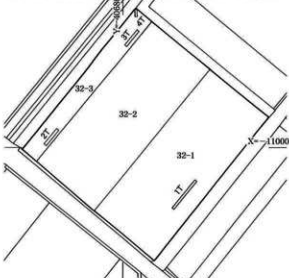
注) 田添夏喜 1979『北牟田塚墳墓』玉名市文化財調査報告第3集 玉名市教育委員会



写真43 北牟田給油所予定地調査地近景(南から)



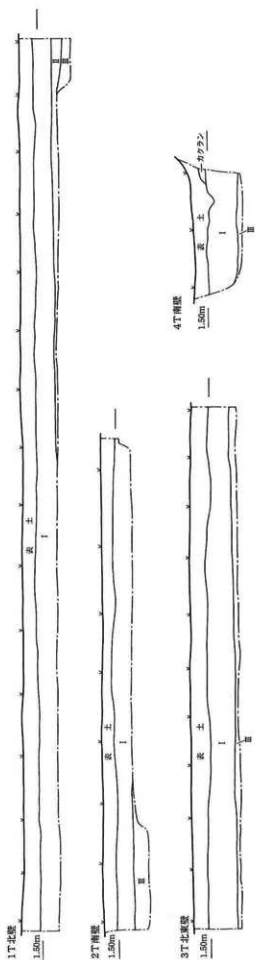
第65図 北牟田給油所予定地調査地位置図 S=1/5,000



第66図 北牟田給油所予定地トレンチ配置図 S=1/2,000



写真44 北牟田給油所予定地1T土層堆積状況(北西から)



表土 調査開始時(10/28)の調査時、調査終了(11/26)の調査時と比べて、水心の高さを部分的に多く含む。  
 I 調査開始時(10/28)の調査時、調査終了(11/26)の調査時と比べて、水心の高さを部分的に多く含む。  
 II 調査開始時(10/28)の調査時、調査終了(11/26)の調査時と比べて、水心の高さを部分的に多く含む。  
 III 調査開始時(10/28)の調査時、調査終了(11/26)の調査時と比べて、水心の高さを部分的に多く含む。

第67図 北牟田給油所予定地トレンチ実測図



写真46 北牟田給油所予定地4T土層堆積状況(東から)



写真45 北牟田給油所予定地2T土層堆積状況(北東から)

18 都市計画道路境川山田線予定地

所在地：山田字下馬場、中嶋、高岡1750-16、1750-17、472-2、473-1、474-4、476-3、1743-4、1744-4、1745-3、1746-3、1751-3、2143-2

調査原因：調査依頼

対象面積：2,354.90㎡

調査期間：平成20年11月4日～11日

担当者：兵谷有利

調査地は、小代山の南斜面に端を発する境川をまたぐ、標高10m程の地点である。

調査地内に15本のトレンチを設定し、重機及び人力で掘削を行った。その結果、各トレンチで近世・近代の水田跡を確認したが、その下層は全て旧境川の氾濫源で、遺構は確認されなかった。

調査は継続中であり、詳細については調査終了後に刊行予定の報告書に掲載予定である。



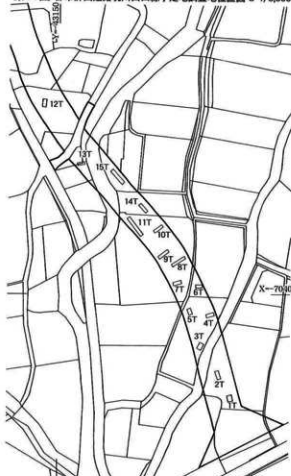
写真47 都市計画道路境川山田線予定地8T近景(西から)



写真48 都市計画道路境川山田線予定地11T土層堆積状況(西から)



第68図 都市計画道路境川山田線予定地調査地位置図 S=1/5,000



第69図 都市計画道路境川山田線予定地トレンチ配置図 S=1/2,000



### 19 庄山中ノ尾遺跡

所在地：岱明町庄山中ノ尾 633-1 外9筆及び水路

調査原因：調査依頼

対象面積：14,348㎡

調査期間：平成20年12月3日～10日

担当者：大倉千寿・兵谷有利

調査地は、行末川水系今泉川の東側に位置する低丘陵上の標高14～18mの地点である。面積が広大で、土地利用の方法も地番によって異なる。店舗建設に伴う調査依頼を受け、埋蔵文化財の有無を確認した。

726、731-3番地は調査地内の東側に位置し、標高は17.5m程である。造成されているが、宅地等としての利用はない。トレンチごとに堆積状況が若干異なるが、Ⅰ層は山砂による盛土、Ⅱ層は暗褐色を呈する旧耕作土、Ⅲ層はにぶい黄褐色土、Ⅳ層は無遺物層の岱明層である。6・8トレンチにおいてⅢ層上面で竪穴住居跡を検出し、多数の遺物が出土した(第77図34～42)。

634番地は調査地内の北西に位置し、標高は16m程である。西側の一部を耕作に利用しているが、そのほかでは耕作は行われていない。基本土層は726、731-3番地と同様であるが、遺構は確認できなかった。

722～725番地は主にミカン畑として現在も利用されている。標高は16m程である。11・25・30・31トレンチに土器片を含むⅢ層を確認し、11トレンチではⅤ層上面から数基のピットを検出したが、出土した土器はいずれも小片でローリングを受けているため、時期は不明である。

717、721-1番地は今泉川の支流によって浸食を受け形成された谷部分で、トレンチごとに差異はあるが、砂質土と砂が堆積し、遺構や遺物は確認されなかった。

633-1番地は配水管が敷設されているため、掘削を行っていない。



写真49 庄山中ノ尾遺跡726番地近景(北から)



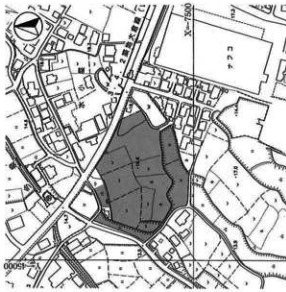
写真50 庄山中ノ尾遺跡6T遺構検出状況(北から)



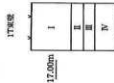
写真51 庄山中ノ尾遺跡8T土層堆積状況(東から)

調査の結果、埋蔵文化財が確認されたため、遺跡地図マイラー原図への新規記載の手続きを行った。

施工の際に基礎掘削が及ぶ範囲に関して、再度確認調査を行う予定だったが、その後計画が中止になり、工事が行われなかったため調査も行っていない。



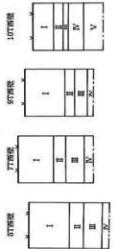
第70図 庄山中ノ尾遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



17.20m  
 1-5、7、9T  
 I 灰土、山形による盛土。  
 II 褐色土(土079K/3) しまりがあり、粘性を有す。砂質土。細砂中土。  
 III 褐色土(土079K/3) しまりがあり、粘性を有す。砂質土。砂質中土。  
 IV 土079K/3 しまりがあり、粘性を有す。砂質土。砂質中土。  
 V 土079K/4 しまりがあり、粘性を有す。細砂中土。砂質土。



第71図 庄山中ノ尾遺跡トレンチ配置図 S=1/2,000



17.20m  
 10T  
 17の1に別記。  
 I 灰土、山形による盛土。  
 II 褐色土(土079K/3) しまりがあり、粘性を有しない。砂質土。  
 III 褐色土(土079K/3) しまりがあり、粘性を有す。砂質土。砂質中土。  
 IV 土079K/3 しまりがあり、粘性を有す。砂質土。砂質中土。  
 V 土079K/4 しまりがあり、粘性を有す。細砂中土。砂質土。

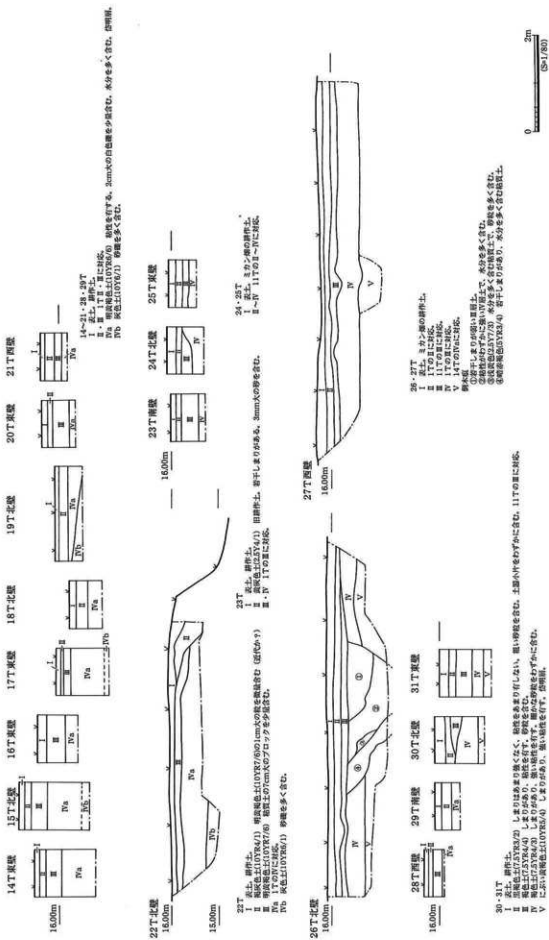


写真52 庄山中ノ尾遺跡4T全景 (西から)

第72図 庄山中ノ尾遺跡トレンチ実測図①



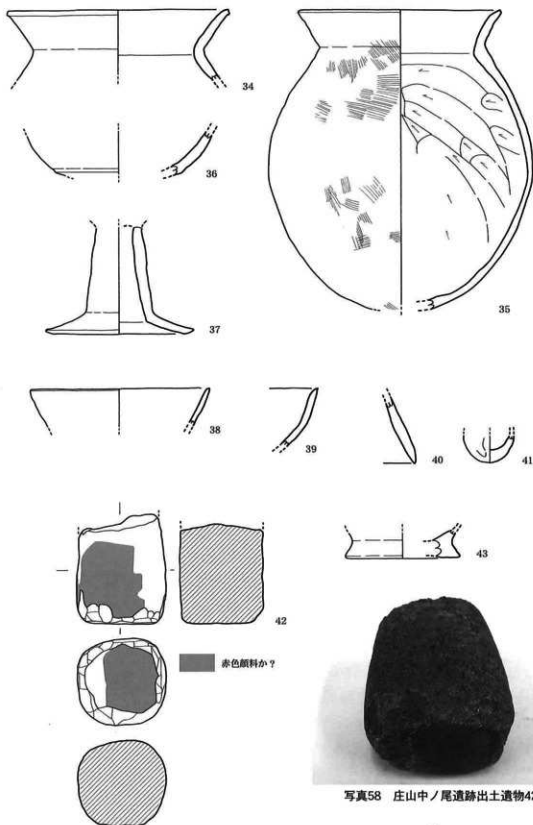




第75図 庄山中ノ尾遺跡トレンチ実測図④



II 平成20年度の調査



第77図 庄山中ノ尾遺跡出土遺物実測図

## 20 八段遺跡

所在地：築地字陣内2379-1、2380-1

調査原因：調査依頼

対象面積：1,009㎡

調査期間：平成20年12月15日

平成21年3月25日～27日

担当者：古閑敬士・兵谷有利

調査地は、小代山から南に延びる丘陵地に位置し、標高約21mの地点にあたる。

今回の工事は、宅地化のための造成工事で、事前に調査依頼が提出され2回に分けて確認調査を行った。

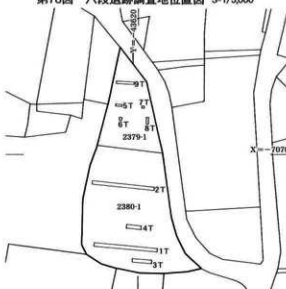
その結果、南側の畑部分（2380-1）について、4本のトレンチを設定し、1及び2トレンチで敷地北側から続く、築地館の堀とみられる遺構（S-01）を確認した。土層の堆積状況から土地の造成などで一気に埋められたものと考えられる。また、1トレンチでは深さ約1.5mの遺構（S-02）を検出した。この遺構も堀の可能性があったため、南北に3・4トレンチを掘削したが、広がりを確認できなかった。敷地全体が以前の宅地造成などで大きく削り取られ、深い遺構だけが残っていたようである。

北側の山林部分（2379-1）について、5本のトレンチを設定し、築地館の堀とみられる部分を東西方向に2箇所（5、9トレンチ）掘削した。5トレンチと9トレンチの西側では堀の落ち込みが確認された。堀の一番高いところは標高21.8mで確認されている。なお、5トレンチ東側落ち込みは墓穴と思われたが現在のゴミ穴（樹木抜痕）であった。6、7、8トレンチでは、深さ約30cmで無遺物層が検出された。

確認調査後、開発側と協議を行い、埋蔵文化財に対し影響を与えないよう工事の計画変更がなされ、敷地南部で20cm、敷地北部で140cmの盛土を行う事となり、今後の措置は慎重工事になった。



第78図 八段遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



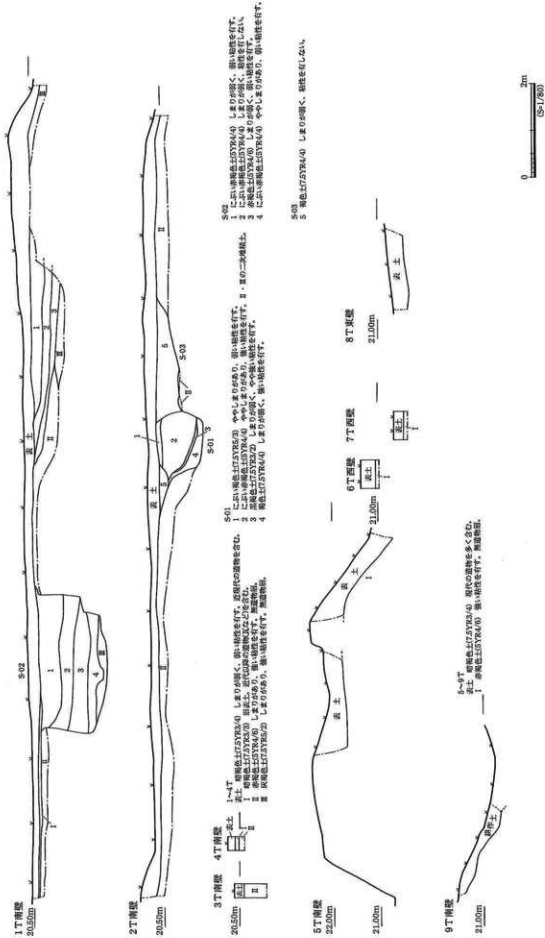
第79図 八段遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000



写真59 八段遺跡調査地近景（南から）

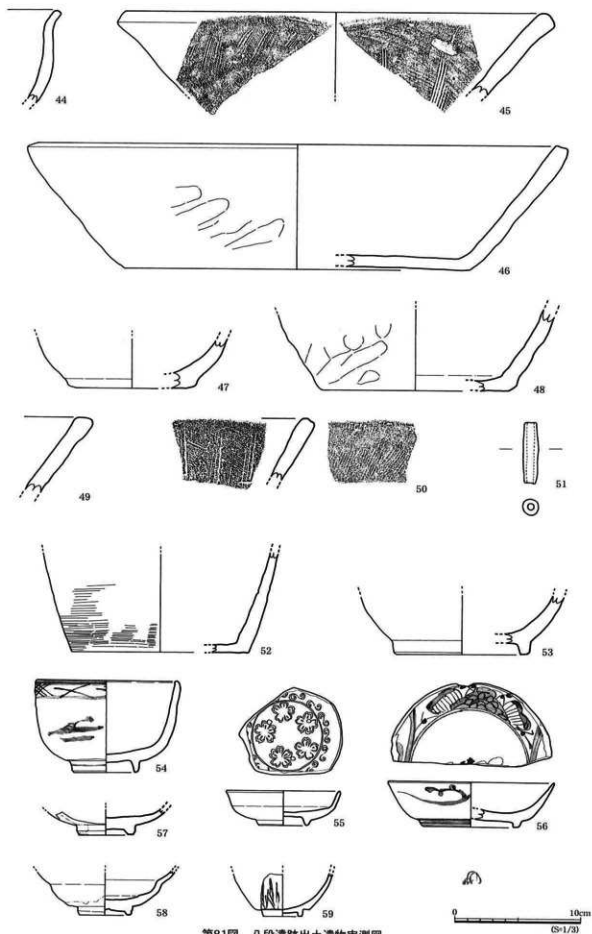


II 平成20年度の調査



第80図 八段遺跡トレンチ実測図

II 平成20年度の調査



第81図 八段遺跡出土遺物実測図

## 2.1 伊倉宮の後遺跡

所在地：伊倉北方字宮の後2746から2715-2

調査原因：道路改良工事

対象面積：2,200㎡

調査期間：平成20年12月18日

担当者：田中康雄

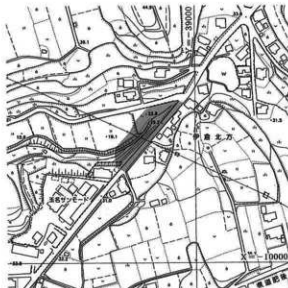
調査地は、菊池川左岸の伊倉丘陵性台地ほぼ中央に位置する標高23～30m程の地点である。

施工箇所は、既設の市道で台地内に形成された小規模な谷と西側で接している。道路面と谷との高低差が8m程あり、急斜面を形成している。

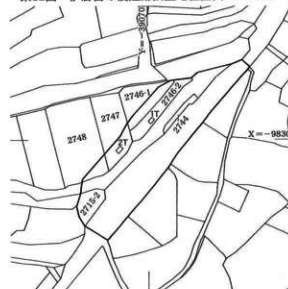
今回の工事は、西側斜面部への盛土による道路拡幅、側溝設置及び現斜面裾部の水路取り回しに伴う大型水路の設置である。道路拡幅及び側溝設置については、盛土部での施工であることから、埋蔵文化財への影響は発生しないものと考えられるが、大型水路部に関しては、現況地盤への掘削が発生することから、確認調査を実施した。

調査では、大型水路設置予定部に隣接して2箇所のトレンチを設定したが、1トレンチで近世末期のものと考えられる磁器小片等をわずかに確認したのみで、その他遺構・遺物共に確認されなかった。

調査後の措置は慎重工事である。



第82図 伊倉宮の後遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



第83図 伊倉宮の後遺跡トレンチ配置図 S=1/2,000



- 1T
- I 表土 現在の水田耕作土
  - II 褐色土(7.5YR4/3) 多少しまりがあり、粘性を有する。明赤褐色(2.5YR5/8)粒を含む。
  - III 暗褐色土(7.5YR3/4) 多少しまりがあり、粘性を有する。明赤褐色(2.5YR5/8)粒を含む。
  - IV 褐色土(7.5YR4/4) あまりしまりがなく、粘性を有する。明赤褐色(2.5YR5/8)及び炭化物の粒を多少含む。
  - V 暗褐色土(7.5YR3/3) 多少しまりがあり、粘性を有する。マンガンと思われる黒色粒を含む。
  - VI 褐色土(7.5YR4/4) 多少しまりがあり、粘性を有する。マンガンと思われる黒色粒を多量に含む。
  - VII 暗褐色土(10YR3/4) しまりがあり、粘性を有する。明赤褐色(2.5YR5/8)粒を含む。マンガンと思われる黒色粒を多量に含む。
  - VIII 暗褐色土(10YR3/3) 多少しまりがあり、強い粘性を有する。マンガンと思われる黒色粒を多く含む。
  - IX 灰褐色土(7.5YR4/2) 非常にしまりがあり、非常に強い粘性を有する。
- 2T
- I 表土 現在の水田耕作土
  - II 褐色土(7.5YR4/2) 多少しまりがあり、粘性を有する。
  - III 暗褐色土(10YR3/3) しまりがあり、粘性を有する。1～2mm大の砂粒を多量に含む。現在の水田耕作に伴う客土と思われる。
  - IV 褐色土(7.5YR4/4) しまりがあり、多少粘性を有する。
  - V 暗褐色土(7.5YR3/4) 多少しまりがあり、粘性を有する。マンガンと思われる黒色粒を多く含む。
  - VI 暗褐色土(2.5Y4/2) 多少しまりがあり、強い粘性を有する。1～2mm大の砂粒を少量含む。
  - VII 黒褐色土(2.5Y3/2) 多少しまりがあり、強い粘性を有する。1～2mm大の砂粒を少量含む。
  - VIII 暗褐色土(2.5Y3/2) 多少しまりがあり、強い粘性を有する。1～2mm大の砂粒を含む。礫よりやや細かい。
  - IX 黄褐色土(2.5Y4/1) 多少しまりがあり、強い粘性を有する。1～2mm大の砂粒を含む。
  - X 黒褐色土(2.5Y3/1) あまりしまりがなく、強い粘性を有する。1～2mm大の砂粒を少量含む。

第84図 伊倉宮の後遺跡トレンチ実測図

## 2.2 刀研遺跡

所在地：三ツ川字本谷5395-1地先より石貫字  
見初山1690-1地先まで

調査原因：道路改良工事

対象面積：20,000㎡

調査期間：平成21年1月6日～8日

担当者：中村安宏

調査地は、小代山地東側に位置する標高30～70m程の地点である。

埋蔵文化財発掘の通知提出に伴い踏査を実施した。その結果、山口橋北西に約60～120m地点において石垣を確認した。また、石垣上部の山林において石祠一基及び墓一基を発見、その碑文によりそれらは、幕末の肥後藩士で玉名郡代を勤めた中村恕齋の石祠と嫡男嘉一郎の墓であることが判明した。この中村家というのは、能楽の肥後金春流の家元でもある。

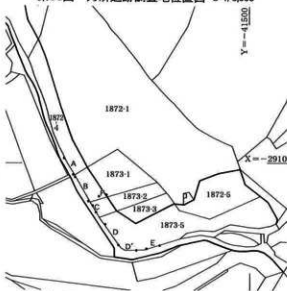
また、中村家の子孫のもとには旧宅の絵図が残されており（第88図）、絵図中の石祠と墓の位置関係が合うことから石祠下の平地が恕齋の嫡男である嘉一郎により、知行地であった北石貫に設定された屋敷跡であることが判明した。なお、絵図には能楽堂や楽屋の記載もあった。

明治初期、熊本藩士が石貫の地に移り住むことになった歴史的背景について、熊本大学文学部吉村豊雄教授は、次のように述べている。

中村恕齋が死去したのが、明治三年、嫡男嘉一郎が熊本城下から知行地の一つ、玉名郡石貫に移住するのが明治六年である。熊本藩においては、明治四年の廃藩置県後も事実上存続した藩制が、中央派遣の県令のもとで一気に解体されるのが明治六年である。嘉一郎が父恕齋の生誕の地、中村家の在宅地であった石貫の地に居宅を移したことは、明治六年に熊本藩士がどのような境遇におかれたかということを象徴するも



第85図 刀研遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



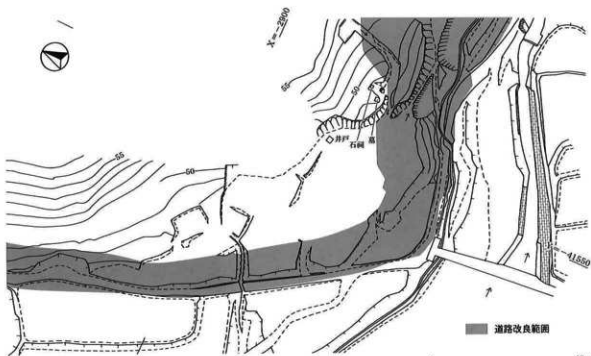
第86図 刀研遺跡調査範囲図 S=1/2,000

のでもある<sup>13)</sup>。

工事内容は市道拡幅工事であり、調査は石垣が削平されるため、石垣の検出及び実測調査を実施した。

注) 吉村豊雄 2007『幕末武家の時代相—熊本藩代中村恕齋日録抄—下巻』清文堂 p.291より引用

II 平成20年度の調査

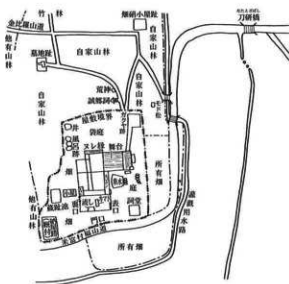


第87図 刀研遺跡周辺測量図

陰刻文



写真60 中村惣斎石祠・中村嘉一郎墓 (南東から)



第88図 子孫に残されている旧宅絵図

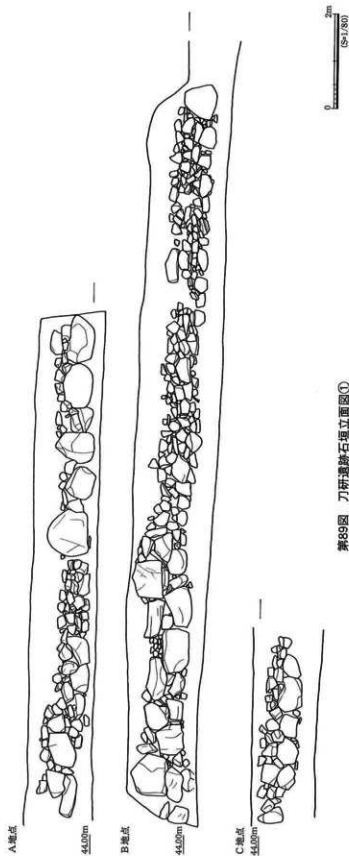
故郡宰惣齋中村君諱誠郷稱喜善  
 明治三年十二月二十四日歿年六  
 十七葬於城西發星山先塋之側君  
 嘗曰吾誕于内田郷北石貫村高見  
 平以髮毛埋其地因如遺命云

嫡男中村正路謹録

石祠陰刻文



写真61 刀研橋 (北から)



第89図 刀研遺跡石垣立面図①



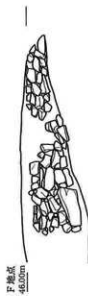
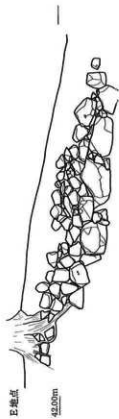
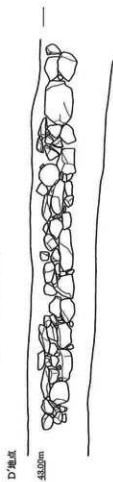
写真62 刀研遺跡石垣A地点・B地点・C地点（北西から）



写真63 刀研遺跡石垣A地点（南西から）



写真64 刀研遺跡石垣B地点・C地点（南から）



第90図 刀研遺跡石垣立面図②



写真65 刀研遺跡石垣D地点・D'地点 (北西から)



写真66 刀研遺跡石垣D'地点 (北西から)

### 23 キャアガラワラ貝塚

所在地：横島町横島字外前平1719

調査原因：共同住宅建設

対象面積：1,753.18㎡

調査期間：平成21年1月13日

担当者：古閑敬士

調査地は、菊池川左岸、横島丘陵の南側、標高2～3m、干拓で農地化された地域のなかにある。『熊本県遺跡地図』には縄文時代の貝塚として記載される。共同住宅の建設工事に伴い土壌改良を行う予定であったため、4箇所のトレンチを設定し、重機等を使用し埋蔵文化財の状況を確認した。

調査の結果、水田耕作を行っていた表土以下、I～VI層を確認した。I～III層は干拓によってこの地に運ばれた客土と見られる。IV層以下は湧水が著しく、貝殻が混じる粘性の強い層で干潟の堆積と考えられる。VI層は貝などの巢穴と見られる痕跡が多数見られた。遺構・遺物は確認されなかった。

調査後の措置は慎重工事である。



写真67 キャアガラワラ貝塚調査地近景(南西から)



第91図 キャアガラワラ貝塚調査地位置図 S=1/5,000



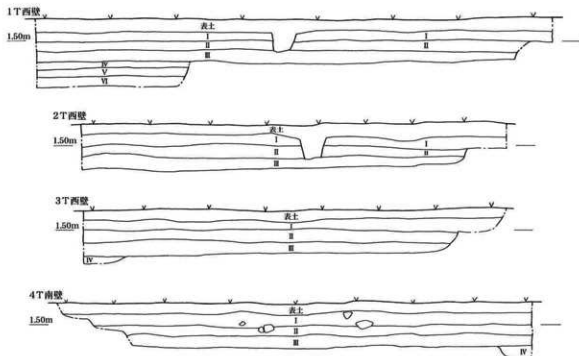
第92図 キャアガラワラ貝塚トレンチ配置図 S=1/2,000



写真68 キャアガラワラ貝塚1T土層堆積状況(東から)



## II 平成20年度の調査



表土 褐色色土(10YR4/1) 現在の水田耕作土。

I 暗灰黄色土(2.5Y5/2) しまりがあり、強い粘性を有す。鉄分・マンガンを多く含む。

II 灰黄褐色土(10YR4/2) しまりがあり、やや強い粘性を有す。Iと同様の混入物(主にマンガング)を含む。

III 黄褐色土(2.5Y4/1) ややしまりがあり、強い粘性を有す。マンガンを少量含む。

IV 暗オリーブ灰色土(2.5GY4/1) しまりが弱く、強い粘性を有す。細かく砕けた貝殻を多く含む。部分的に砂が多く入る。

V 暗オリーブ灰色土(2.5GY3/1) ややしまりがあり、強い粘性を有す。貝殻を多く含む。残りのよい貝殻も多い。

VI オリーブ黒色土(7.5Y3/1) ややしまりがあり、強い粘性を有す。

※I～VI層は千石のため造成された土と見られ、I～III層にかけて、たまに30～50cm大の石が入る。IV～VI層は千石以前の千石により形成された層と見られる。



第93図 キャアガラワラ貝塚トレンチ実測図



写真69 キャアガラワラ貝塚3T土層堆積状況(東から)

## 2 4 石貫穴観音横穴

所在地：石貫字安世寺2387外5筆

調査原因：整備に伴う測量調査

対象面積：3,821㎡

調査期間：平成21年1月16日～3月18日

担当者：末永 崇

石貫穴観音横穴は、小代山南麓に広がる低丘陵上の標高約40mの地点に位置する。繁根木川流域は、その支流によって丘陵が開削され、阿蘇溶結凝灰岩の露頭が多い地域であり、その中の山口川によって開削された南北に細長い低丘陵の西側に5基が確認される。横穴と丘陵下の宅地との高低差は約12mを測る。丘陵東側には石貫ナギノ横穴群48基が確認される。

石貫穴観音横穴南側の一帯は、中世の寺院である安世寺が所在した。安世寺は、寛正2(1461)年、菊池氏の一族の藤原為安が、菊池の臨濟宗正観寺第十五世笑転和尚を招いて創建したと伝えられている。寺院はその後菊池氏の衰えとともに荒廃していったと考えられ、現在は歴代住職の墓(安世寺第1世墓・第2世墓)が残っている。横穴は寺院の一部となっていた時期があり、周辺の状況や観音像が彫られていることから、寺院の中心的な施設であったことも考えられる。現在は地元の安世寺地区によって清掃・管理がなされている。寺域は、概ね安世寺地区の集落の範囲に相当すると考えられ、南北100m、東西150mほどの範囲と推定される。横穴群も

含めて周辺は大きな土地開発もなされておらず、古くからの景観を保っている。

現在、確認されている5基の横穴墓は、西側から1号墓としており、拝殿正面に1号墓から3号墓が並んで築かれ、やや離れて4号墓、さらに離れて5号墓が築かれている。1～3号墓までに彩色による装飾がみられ、2号墓内部奥壁に千手観音像が浮彫りされている。1～3号墓の前庭部に相当する部分は、南北7m、東西20mほどの平坦地であり、拝殿が建設されている。2号墓玄室床面と平坦面との高低差は約2m、平坦面と下の里道との高低差は約7mを測る。5号墓の南側には、小規模な谷状の地形がみられ、谷頭の湧水点には井戸が設置されている。

凝灰岩の露頭範囲については、1号墓の西約12mの地点に横穴群上への里道が掘られており、西端はそこまで確認できる。東端は、5号墓東側にわずかに凝灰岩崖面が確認できるが、大部分は埋没しているとみられる。さらに東側の丘陵裾部は、下の畑まで階段状に造成されて杉が植林されている。

石貫穴観音横穴と石貫ナギノ横穴群は、同じ丘陵の西側と東側に所在し、その間の部分については、丘陵裾部と住宅敷地が接する部分に凝灰岩崖面が認められる。しかし、太平洋戦争中の防空壕とカライモの貯蔵穴が多くあり、横穴墓の存在の判断が非常に困難な状況である。

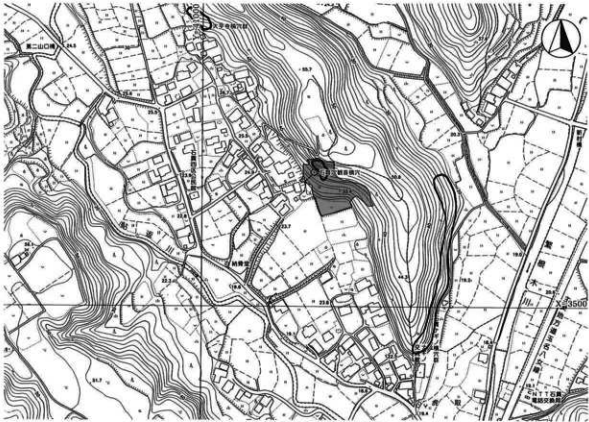


写真70 石貫穴観音横穴遠景

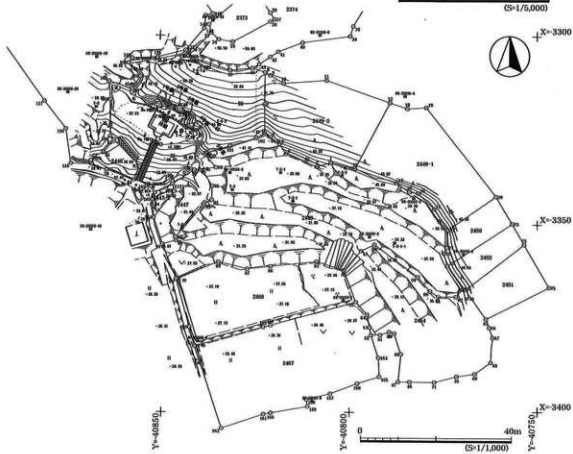


写真71 石貫穴観音横穴1～3号墓(西から)

II 平成20年度の調査



第94図 石貫穴観音横穴測量範囲図



第95図 石貫穴観音横穴周辺測量図

II 平成20年度の調査



写真72 石貫穴観音横穴（南から）



写真73 石貫穴観音横穴1~3号基（南から）



写真74 石貫穴観音横穴1号基



写真75 石貫穴観音横穴2号基



写真76 石貫穴観音横穴2号基内部



写真77 石貫穴観音横穴3号基



写真78 石貫穴観音横穴4号基



写真79 石貫穴観音横穴5号基

## 25 中北遺跡B地点

所在地：伊倉北方字古伊倉屋敷895-1

調査原因：調査依頼

対象面積：786㎡

調査期間：平成21年2月2日

担当者：古閑敬士

調査地は、伊倉丘陵性台地の東端に近い標高約25mの地点で、周囲の畑地より1m以上低くなっている。辺りは中北遺跡として何度か確認調査が行われ、弥生時代の甕棺など多くの遺構・遺物が発見されている<sup>1)</sup>。今回の調査でも周辺の表探資料で甕棺破片などが得られた。住宅建築のため調査依頼を受け、予定地内に3本のトレンチを設定し、埋蔵文化財の状況を確認した。

その結果、表面には最大40cmの厚さで山砂が敷かれ、その下部は地盤深くの土まで重機で削られ、攪拌している状況を確認した。遺構・遺物は確認されなかった。重機を使って近い時期に造成が行われたと考えられる。

調査後、埋蔵文化財発掘の届出がなされ、その後の措置は慎重工事である。

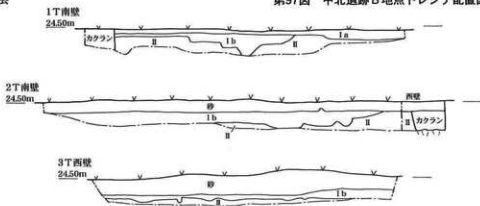
注) 豊父雅史2006「10 中北遺跡 (A地点1区)」『玉名市内遺跡調査報告書Ⅲ』玉名市文化財調査 報告第15集 玉名市教育委員会



第96図 中北遺跡B地点調査地位位置図 S=1/5,000



第97図 中北遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



- 1a 灰褐色土(75YR4/2) 現在の表土。造成時の山砂。ビニール片を含む。  
 1b 黄褐色土(10YR4/3)・橙土(5YR6/8) 造成でかき混ぜられた地山の土。攪拌の具合により様々な色合いを呈する。  
 II に5Y-黄褐色土(10YR7/3) 加蓋物。

第98図 中北遺跡B地点トレンチ実測図



## 2 6 大原遺跡B地点 / 塚原遺跡

所在地：岱明町野口字木船309-2、大原579-2/  
岱明町野口字塚原658

調査原因：調査依頼

対象面積：2,732㎡

調査期間：平成21年3月10日～18日

担当者：大倉千寿

〔大原遺跡B地点〕

調査地は、友田川が西側に流れる丘陵上の標高約14～16mの地点である。塚原遺跡とはJR鹿兒島線を挟んで北側に位置する。調査地の北側は、平成元年の調査で弥生時代後期の木棺墓、箱式石棺、地下式土塋、竪穴住居等が確認されている<sup>3)</sup>。周辺の現況は畑地であるが、調査地は周辺と若干の比高差があり、耕作は行われていない。

北側の579-2番地に3本、南側の309-2番地に2本のトレンチを設定して掘削を行ったところ、579-2番地では弥生時代の遺物と遺構を確認した。309-2番地は約2mの深さまで掘削を行ったが、建築廃材等が多量に混入する盛土層であった。

注) 田辺哲夫 2009「玉名の歴史第三回一興文(二)・弥生時代」『歴史玉名』第3号 玉名歴史研究会

〔塚原遺跡〕

調査地は、玉名台地の南端に近く、JR鹿兒島線の南側に位置する標高約16mの地点であり、現況は畑地である。

調査地内に8本のトレンチを設定し、確認調査を行ったところ、弥生時代から古代に属すると考えられる遺構及び遺物を確認した。

詳細については、発掘調査後の報告書に掲載予定である。



第99図 大原遺跡B地点 / 塚原遺跡調査地位位置図 S=1/5,000



第100図 大原遺跡B地点トレンチ配置図 S=1/1,000



第101図 塚原遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

## 27 高城遺跡

所在地：下字天道峯1352

調査原因：調査依頼

対象面積：793㎡

調査期間：平成21年3月26日

担当者：大倉千寿

調査地は、安楽寺丘陵性台地の標高約45mの地点で現況は畑地である。同じ丘陵上の北側は下村城跡、その西側斜面は城ノ浦横穴が所在し、それぞれ平成11・12年度に確認調査が行われている。

調査地内に1本のトレンチを設定して掘削を行ったところ、地表面から約40cm下まで表土及び近世の旧耕作土であった。その下は褐色から明赤褐色を呈する無遺物層であり、埋蔵文化財は確認されなかった。



写真80 高城遺跡1T土層堆積状況（南西から）

1T北壁

45.00m



1 トレンチ

I 表土 耕作土

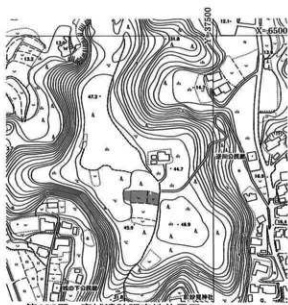
II 暗褐色土(10YR3/4) しまりが弱く、わずかに粘性を有する。微量の炭化物、焼土粒を含む。部分的に明赤褐色土をブロック状に含む。近世の陶磁器片、瓦片を含む。旧耕作土。

III 褐色土(7.5YR4/0) わずかにしまりがあり、粘性を有しない。白色砂粒、黒褐色土粒を含む。

IV 明赤褐色土(5YR5/0) わずかにしまりがあり、粘性を有しない。細かい砂粒を含む。

V 暗赤褐色土(5YR6/0) わずかにしまりがあり、粘性を有しない。

ⅢⅣ～Ⅴは無遺物層。



第102図 高城遺跡調査地位置図 S=1/5,000



第103図 高城遺跡トレンチ配置図 S=1/1,000

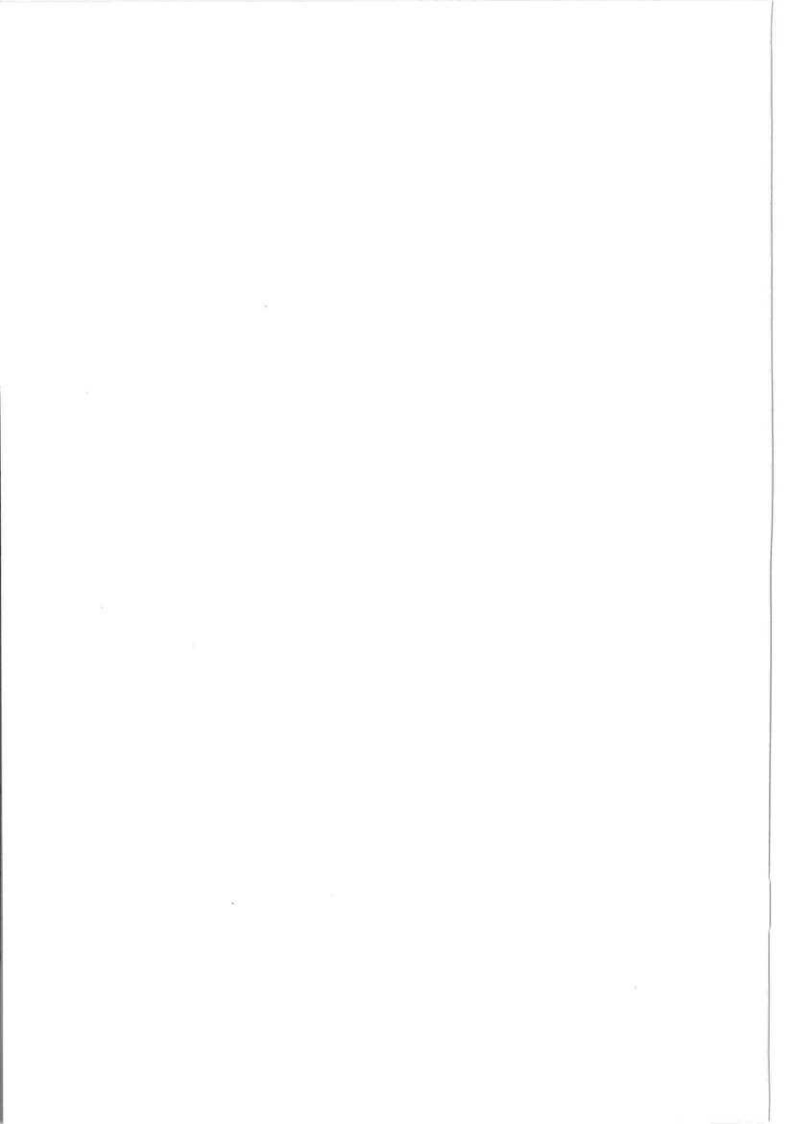
第104図 高城遺跡トレンチ実測図











報告書抄録

ふりがな	たまなしないいせきちようさほうしじょ
書名	五名市内遺跡調査報告書VI
副書名	平成20年度の調査
巻次	
シリーズ名	五名市文化財調査報告
シリーズ番号	第21集
編著者	中村安宏 大倉千寿 兵谷有利 田中康雄 末永崇 星父雅史 古閑敏士
編集機関	五名市教育委員会
所在地	〒869-0292 熊本黒五名市信明町野口2129
発行年月日	平成21年12月28日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m <sup>2</sup> )	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たまなへいりょうりあつ 五名平野赤土跡	たまなしいわき 五名市岩崎	43206	483	32°56'33"	130°34'16"	平成20年4月1日 ～ 平成21年3月31日		個人住宅・ 共同住宅・ 道路・店舗 等 各種開発
やまだじんじちんげんいせきAちてん 山田神社門前遺跡A地点	たまなしやまだ 五名市山田	43206	408	32°56'29"	130°32'15"			
たかおなほいせき 高岡原遺跡	たまなしやまだ 五名市山田	43206	174	32°56'12"	130°32'34"			
たかおなほいせき 高瀬原部・瀧下跡A地点	たまなしいわき 五名市岩崎	43206	218	32°55'51"	130°32'52"			
やまだまつおひらいせき 山田松原平遺跡	たまなしやまだ 五名市山田	43206	084	32°56'32"	130°32'35"			
たんがいでいせき 蓮華遺跡	たまなしついで 五名市築地	43206	160	32°55'55"	130°32'07"			
たかおなほいせき 高瀬原部・瀧下跡B地点	たまなしいわき 五名市岩崎	43206	218	32°55'51"	130°32'52"			
かめのこいせき 亀甲遺跡	たまなしかのこう 五名市亀甲	43206	190	32°55'42"	130°33'11"			
いわきさばいせき 近崎原遺跡	たまなしかのこう 五名市亀甲	43206	219	32°55'58"	130°33'20"			
やまだじんじちんげんいせきちてん 山田神社門前遺跡B地点	たまなしやまだ 五名市山田	43206	408	32°56'29"	130°32'15"			
こうぶちもんげんいせき 広福寺門前遺跡	たまなししおき 五名市石貴	43206	021	32°58'07"	130°33'20"			
いしめきのうまふようたけいりよてい 石貴農業用池予定地	たまなししおき 五名市石貴	43206	-	32°57'55"	130°33'04"			
みなみいでいせき 南出遺跡	たまなしなか 五名市中	43206	184	32°55'40"	130°32'56"			
すえひららきていびょうあつ 末広園庭跡	たまなしおほほま 五名市大浜町	43206	-	32°52'03"	130°31'25"			
おおほらいせきAちてん 大原遺跡A地点	たまなしおほらい 五名市信明町野口	43361	056	32°55'43"	130°32'04"			
なかきといせきAちてん 中北遺跡A地点	たまなしひらきたかた 五名市伊直北方	43206	301	32°54'41"	130°34'02"			
あむたつやゆめゆめいせき 北平田給油所予定地	たまなしきたかた 五名市北平田	43206	-	32°54'00"	130°33'55"			
おしげいびくろふさかいせき 都市計画道路鏡川山田線	たまなしやまだ 五名市山田	43206	-	32°56'10"	130°32'21"			
しやうやまなかのおいせき 庄山中ノ尾遺跡	たまなししやうやま 五名市信明町庄山	43361	-	32°55'55"	130°31'11"			
はったんいせき 八段遺跡	たまなしついで 五名市築地	43206	167	32°56'09"	130°31'58"			
いらみちのあといせき 伊倉宮の後遺跡	たまなしひらきたかた 五名市伊直北方	43206	334	32°54'33"	130°34'52"			
なついでいせき 刀研遺跡	たまなししおき 五名市石貴	43206	381	32°58'17"	130°33'13"			
きやあつかわらかいせき キヤアワラワ貝塚	たまなしこいせき 五名市熊本黒高島	43362	005	32°52'49"	130°33'19"			
いしめきあなわのんよこあな 石貴六窟音横穴	たまなししおき 五名市石貴	43206	016	32°58'11"	130°33'45"			
なかきといせきちてん 中北遺跡B地点	たまなしひらきたかた 五名市伊直北方	43206	301	32°54'41"	130°34'02"			
おおほらいせきちてん 大原遺跡B地点/塚原遺跡	たまなしおほらい 五名市信明町野口	43362	056/050	32°55'43" /32°55'23"	130°32'04" /130°31'50"			
たかじょういせき 高城遺跡	たまなししも 五名市下	43206	134	32°56'24"	130°35'50"			

玉名市文化財調査報告 第21集  
玉名市内遺跡調査報告書VI  
平成20年度の調査

---

平成21年12月16日印刷  
平成21年12月28日発行

編集発行 玉名市教育委員会  
〒862-0292 玉名市信明町野口2129

印刷 株式会社 有明印刷  
〒865-0022 熊本県玉名市寺田123-1  
TEL 0968-73-2055